

たわら いし
俵 石 第 1 遺 跡

Tawaraishi 1 Site

東九州自動車道（日向～都農間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 1

2011

宮崎県埋蔵文化財センター



俵石第1遺跡から日向灘を望む



俵石第1遺跡から荒崎山を望む

巻頭図版 2



石碑第1遺跡の基本土層



SC22 杭痕跡半截状況



石群 (SI13) III層



縄文時代早期の陥し穴状遺構 (SC6)



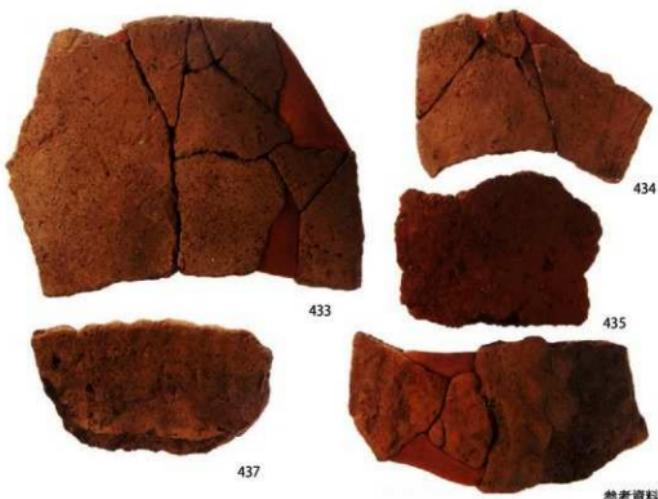
石群 (SI 7) VI層



第VII層出土の水晶製石核・剥片



第IV層出土の石器（細石刃・細石刃核）



参考資料

縄文時代早期の土器



縄文時代早期の石器

序

宮崎県教育委員会では、平成 20 年度から東九州自動車道（日向～都農間）建設予定地にかかる埋蔵文化財の発掘調査を実施しており、本書はその報告書であります。

本書に掲載した俵石第 1 遺跡は、都農町大字川北字湯牟田に位置し、平成 20 年 11 月から平成 21 年 11 月にかけて発掘調査が行われました。

調査の成果としましては、後期旧石器時代の 5 時期にわたる礫群や石器群が確認され、AT(始良 Tn 火山灰) 層下位から、周辺遺跡では見られなかった阿蘇溶結凝灰岩や水晶製の石器が出土したことがあげられます。

また、縄文時代早期の陥し穴状遺構が丘陵地の等高線に沿って列状に検出されたり、石鏃等の石器が多く出土したりしたことでも成果の一つであります。

ここに報告する内容は今後、当地域の歴史を解明する上で貴重な資料になるものと考えられます。

本書が学術資料となるだけでなく、学校教育や生涯学習の場などで活用され、また、埋蔵文化財保護に対する理解の一助になれば幸いです。

最後に、調査にあたって御協力いただいた関係諸機関・地元の方々、ならびに御指導、御助言を賜った先生方に対して厚く御礼申しあげます。

平成 23 年 3 月

宮崎県埋蔵文化財センター
所長 森 隆茂

例　　言

- 1 本書は平成 20 年～ 21 年度に実施した東九州自動車道（日向～都農間）建設に伴う俵石第 1 遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は西日本高速道路株式会社九州支社から委託を受け、宮崎県教育委員会が調査主体となり宮崎県埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 現地での実測図等の記録は今塩屋毅行、日高優子、横山正文、土屋雄毅、嶋田史子、太田真理子を中心に行った。
- 4 現地での写真撮影は横山正文、今塩屋毅行、日高優子が行った。
また、遺物写真は今塩屋毅行が行った。
- 5 俵石第 1 遺跡では以下の業務に関しては委託を行った。

空中写真撮影	： (株)九州航空
基準杭設置	： (有)河野測量設計事務所
石器実測およびトレース	： (株)バスコ
テフラ分析	： (株)古環境研究所

- 6 遺構・遺物の実測図作成は、整理作業員の補助を得て横山が行った。
- 7 本書に利用した関連遺跡位置図及び周辺遺跡分布図は、国土地理院発行の 1/50,000 地形図（都農）を利用した。また、遺跡周辺地形図は土地分類基本調査図（都農）及び、西日本高速道路株式会社九州支社延岡高速道路事務所提供的 1/2,000 図を基に作成した。
- 8 土層断面、遺構埋土の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版 標準土色帖』に掲った。
- 9 本書で用いた標高は、海拔絶対高である。また、方位は座標北（G.N.）を基本とするが、遺構実測図などの一部に磁北（M.N.）を用いた。
- 10 本書で用いた遺構・火山灰の略号は次のとおりである。
S C : 土坑 S I : 碓群・集石遺構 S Z : 不明遺構 S H : ピット
K - A h : 鬼界アカホヤ火山灰 K r - K b : 霧島小林軽石 A T : 姉良 T n 火山灰
- 11 遺物実測の縮尺は、土器 1/3、石器 2/3 で統一した。また、遺構実測図においても碓群 1/30、土坑 1/30、不明遺構 1/40、土層断面図 1/60 としている。
- 12 本調査区では、国土座標に準じた 10 m × 10 m のグリッドを設定した。各グリッドについては、G5Gr、H8Gr 等と表記することとする。
- 13 本書の執筆・編集は以下のように行った。
 - ・第Ⅰ章～第Ⅲ章、第Ⅳ章（第 1 節～第 7 節）、第Ⅵ章（第 1 節）……………横山
 - ・第Ⅳ章（8 節～11 節）、第Ⅴ章、第Ⅵ章（第 2 節～第 3 節）……………今塩屋
- 14 出土遺物及び諸記録は、宮崎県埋蔵文化財センターで保管している。

本文目次

第Ⅰ章 はじめに

第 1 節 調査に至る経緯	1
第 2 節 調査の組織	1

第Ⅱ章 遺跡をとりまく環境

第 1 節 地理的環境	4
第 2 節 歴史的環境	4

第Ⅲ章 調査の経過と方針

第 1 節 発掘調査の経過	6
第 2 節 整理作業の経過	6
第 3 節 教育普及活動	9

第Ⅳ章 調査の記録

第 1 節 基本層序	10
第 2 節 石材の分類基準	12
第 3 節 後期旧石器時代文化層の認識	19
第 4 節 後期旧石器時代Ⅰ期	19
第 5 節 後期旧石器時代Ⅱ期	20
第 6 節 後期旧石器時代Ⅲ期	34
第 7 節 後期旧石器時代Ⅳ期	54
第 8 節 後期旧石器時代Ⅴ期	98
第 9 節 繩文時代早期の遺構と遺物	104
第 10 節 K-A h 降灰以降の遺構と遺物	118
第 11 節 その他の遺構と遺物	118

第Ⅴ章 自然科学分析の成果

第 1 節 目的	133
第 2 節 テフラ分析	133
第 3 節 植物珪酸体分析	134

第VI章 まとめ

第 1 節 後期旧石器時代	138
第 2 節 繩文時代早期	139
第 3 節 弥生時代の遺構と遺物	139

挿図目次

第 1 図 東九州自動車道(日向～都農間)	
関連遺跡位置図	2
第 2 図 周辺遺跡分布図	5
第 3 図 遺跡周辺地形図	7
第 4 図 グリッド配置図	7
第 5 図 行先トレランチ配置図 尾立第2遺跡との関連図	8
第 6 図 俵石第1遺跡基本土層図	10
第 7 図 土層断面図作成位置図	13
第 8 図 土層断面図(1)	13
第 9 図 土層断面図(2)	14
第 10 図 土層断面図(3)	15
第 11 図 土層断面図(4)	16
第 12 図 土層断面図(5)	17
第 13 図 土層断面図(6)	18
第 14 図 後期旧石器時代Ⅰ期石器分布図	19
第 15 図 後期旧石器時代Ⅰ期石器実測図	20
第 16 図 後期旧石器時代Ⅱ期疊群分布図	21
第 17 図 後期旧石器時代Ⅱ期疊群実測図	22
第 18 図 後期旧石器時代Ⅱ期石材分布図	23
第 19 図 後期旧石器時代Ⅱ期石器・器種別分布図	24
第 20 図 後期旧石器時代Ⅲ期石器接合状況図	25
第 21 図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図(1)	26
第 22 図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図(2)	27
第 23 図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図(3)	28
第 24 図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図(4)	29
第 25 図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図(5)	30
第 26 図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図(6)	31
第 27 図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図(7)	32
第 28 図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図(8)	33
第 29 図 後期旧石器時代Ⅲ期疊群分布図	35
第 30 図 後期旧石器時代Ⅲ期疊群実測図	36
第 31 図 後期旧石器時代Ⅲ期石器器種別 石材別分布図(1)	37
第 32 図 後期旧石器時代Ⅲ期石器器種別 石材別分布図(2)	38
第 33 図 後期旧石器時代Ⅲ期石器器種別 石材別分布図(3)	39
第 34 図 後期旧石器時代Ⅲ期石器器種別 石材別分布図(4)	40
第 35 図 後期旧石器時代Ⅲ期石器接合状況図	41
第 36 図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図(1)	42
第 37 図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図(2)	43
第 38 図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図(3)	44
第 39 図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図(4)	45, 46
第 40 図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図(5)	47
第 41 図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図(6)	48
第 42 図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図(7)	49
第 43 図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図(8)	50
第 44 図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図(9)	51
第 45 図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図(10)	52
第 46 図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図(11)	53
第 47 図 後期旧石器時代Ⅳ期疊群分布図	55
第 48 図 後期旧石器時代Ⅳ期疊群実測図(1)	56
第 49 図 後期旧石器時代Ⅳ期疊群実測図(2)	57
第 50 図 後期旧石器時代Ⅳ期石器器種別 石材別分布図(1)	58
第 51 図 後期旧石器時代Ⅳ期石器器種別 石材別分布図(2)	59
第 52 図 後期旧石器時代Ⅳ期石器接合状況図	60
第 53 図 後期旧石器時代Ⅲ・Ⅳ期石器分布図	61
第 54 図 後期旧石器時代Ⅳ期石器実測図(1)	62
第 55 図 後期旧石器時代Ⅳ期石器実測図(2)	63
第 56 図 後期旧石器時代Ⅳ期石器実測図(3)	64
第 57 図 後期旧石器時代Ⅳ期石器実測図(4)	65
第 58 図 後期旧石器時代Ⅳ期石器実測図(5)	66
第 59 図 後期旧石器時代Ⅳ期石器実測図(6)	67
第 60 国 後期旧石器時代Ⅳ期石器実測図(7)	68
第 61 国 後期旧石器時代Ⅳ期石器実測図(8)	69, 70
第 62 国 後期旧石器時代Ⅳ期石器実測図(9)	71
第 63 国 後期旧石器時代Ⅳ期石器実測図(10)	72
第 64 国 後期旧石器時代Ⅳ期石器実測図(11)	73
第 65 国 後期旧石器時代Ⅳ期石器実測図(12)	74
第 66 国 後期旧石器時代Ⅳ期石器実測図(13)	75
第 67 国 後期旧石器時代Ⅳ期石器実測図(14)	76
第 68 国 後期旧石器時代Ⅳ期石器実測図(15)	77
第 69 国 後期旧石器時代Ⅳ期石器実測図(16)	78

第 70 図	後期旧石器時代IV期石器実測図(17)	79, 80
第 71 図	後期旧石器時代IV期石器実測図(18)	81
第 72 図	後期旧石器時代IV期石器実測図(19)	82
第 73 図	後期旧石器時代IV期石器実測図(20)	83
第 74 図	後期旧石器時代IV期石器実測図(21)	84
第 75 図	後期旧石器時代IV期石器実測図(22)	85
第 76 図	後期旧石器時代IV期石器実測図(23)	86
第 77 図	後期旧石器時代IV期石器実測図(24)	87
第 78 図	後期旧石器時代IV期石器実測図(25)	88
第 79 図	後期旧石器時代IV期石器実測図(26)	89
第 80 図	後期旧石器時代IV期石器実測図(27)	90
第 81 図	後期旧石器時代IV期石器実測図(28)	91
第 82 図	後期旧石器時代IV期石器実測図(29)	92
第 83 図	後期旧石器時代IV期石器実測図(30)	93
第 84 図	後期旧石器時代IV期石器実測図(31)	94
第 85 図	後期旧石器時代IV期石器実測図(32)	95
第 86 図	後期旧石器時代IV期石器実測図(33)	96
第 87 図	後期旧石器時代IV期石器実測図(34)	97
第 88 図	後期旧石器時代V期石器器種別 石材別分布図	98
第 89 図	後期旧石器時代V期石器実測図(1)	99
第 90 図	後期旧石器時代V期石器実測図(2)	100
第 91 図	後期旧石器時代V期及びI～IV期 石器実測図(1)	101
第 92 図	後期旧石器時代V期及びI～IV期 石器実測図(2)	102
第 93 図	後期旧石器時代V期及びI～IV期 石器実測図(3)	103
第 94 図	縄文時代早期土坑分布図	104, 105
第 95 図	縄文時代早期ピット分布図	104, 105
第 96 図	縄文時代早期土坑実測図(1)	108
第 97 図	縄文時代早期土坑実測図(2)	109
第 98 図	縄文時代早期土坑実測図(3)	110
第 99 図	縄文時代早期土坑実測図(4)	111
第 100 図	縄文時代早期土坑実測図(5)	112
第 101 図	縄文時代早期土坑実測図(6)	113
第 102 図	縄文時代早期土坑実測図(7)	114
第 103 図	縄文時代早期土坑実測図(8)	115
第 104 図	縄文時代早期土坑実測図(1)	116
第 105 図	縄文時代早期石器実測図(2)	117
第 106 図	K-Ah 降灰以降の遺構分布図	119
第 107 図	K-Ah 降灰以降の遺構実測図	119
第 108 図	自然遺構実測図(1)	120
第 109 図	自然遺構実測図(2)	121
第 110 図	K-Ah 降灰以降の土器・石器実測図	122
第 111 図	テフラの岩石学的諸特性(1)	135
第 112 図	テフラの岩石学的諸特性(2)	135
第 113 図	テフラの岩石学的諸特性(3)	135
第 114 図	植物珪酸体分析結果	137
第 115 図	植物珪酸体(プラント・オパール)	137

表目次

第 1 表	東九州自動車道(日向～都農間) 関連遺跡一覧	3
第 2 表	石器・石材分類表	12
第 3 表	後期旧石器時代II期礫群計測表	123
第 4 表	後期旧石器時代III期礫群計測表	123
第 5 表	後期旧石器時代IV期礫群計測表	123
第 6 表	土坑計測表	123
第 7 表	後期旧石器時代I期石器計測表	124
第 8 表	後期旧石器時代II期石器計測表	124
第 9 表	後期旧石器時代III期石器計測表	125
第 10 表	後期旧石器時代IV期石器計測表	127
第 11 表	後期旧石器時代V期石器計測表	130
第 12 表	後期旧石器時代I～IV期石器計測表	130
第 13 表	縄文土器観察表	131
第 14 表	縄文時代早期石器計測表	131
第 15 表	弥生土器観察表	132
第 16 表	K-Ah 以降石器計測表	132
第 17 表	出土石器器種別一覧表	132
第 18 表	検出テフラとその組成	134
第 19 表	テフラ分析結果	136
第 20 表	植物珪酸体分析結果	137

図版目次

卷頭図版 1 俵石第 1 遺跡から日向灘を望む 俵石第 1 遺跡から荒崎山を望む	図版 5 ······ 145
卷頭図版 2 俵石第 1 遺跡の基本土層 S C 22 桧痕跡半截状況 縄群 (S I 13) III 層 縄群 (S I 17) VI 層 縄文時代早期の陥し穴状遺構 (SC6)	陥し穴状遺構の列群 S C 36・37・41・43 S C 29 完掘状況 S C 30 完掘状況 S C 41 完掘状況 散礫検出状況
卷頭図版 3 第Ⅵ層出土の水晶製石核・剥片 第Ⅳ層出土の石器 (細石刃・細石刃核)	図版 6 ······ 146
卷頭図版 4 縄文時代早期の土器 縄文時代早期の石器	S A 1 完掘状況 S C 22 完掘状況 S Z 1 (風倒木痕) 半截状況 A 区土坑・小穴群完掘状況 (F 7 Gr-G 7 Gr) 自然流路 (水穴) 検出状況 (F 4 Gr) 礫層 (X I 層) の巨礫 自然流路 (水穴) 完掘状況 (F 5 Gr) 作業風景 (2009 年 7 月)
図版 1 ······ 141 VI 層出土の石器集中区 [I 7 Gr 付近] VI 層面検出の礫群の広がり [K 8 Gr 付近]	図版 7 ······ 147
図版 2 ······ 142 縄群 [S I 14] S I 15] 縄群 [S I 6] S I 8] 縄群 [S I 9] S I 10] 縄群 [S I 12] S I 16]	第IX層出土石器 第VII層出土石器① (ナイフ形石器・スクレイバー)
図版 3 ······ 143 縄群 [S I 11] 縄群 [S I 17] 縄群 [S I 18] 石器出土状況 (V b 層) 石器集中区 (I 9 Gr V b 層) 尾根線上に連なる俵石 (巨礫) 群 炭化材集中区 (J 7 Gr V b 層) 作業風景 (2009 年 2 月)	図版 8 ······ 148 第VII層出土石器② (石核) 第VII層出土石器③ (阿蘇溶結凝灰岩製剥片)
図版 4 ······ 144 縄文時代早期の遺構検出状況 S C 2 完掘状況 S C 2 と周辺の小穴群の土層 小穴群 [S H 15・16] の土層 S C 6 (右) 完掘状況 焼土を含む土坑 [S C 45] S C 6 (右) と S C 22 (左) の切合い	図版 9 ······ 149 第VI層出土石器① (ナイフ形石器・台形石器) 第VI層出土石器② (角錐状石器・剥片尖頭器)
	図版 10 ······ 150 第VI層出土石器③ (石核) 第V層出土石器① (ナイフ形石器)
	図版 11 ······ 151 第V層出土石器② (ナイフ形石器) 第V層出土石器③ (ナイフ形石器・角錐状石器)
	図版 12 ······ 152 第V層出土石器④ (ナイフ形石器・台形石器等) 第V層出土石器⑤ (石核)
	図版 13 ······ 153 第V層出土石器⑥ (二次加工剥片等) 第V層出土石器⑦ (流紋岩・凝灰岩製剥片)
	図版 14 ······ 154 旧石器時代の出土層不明遺物① 旧石器時代の出土層不明遺物②

第Ⅰ章 はじめに

第1節 調査に至る経緯

県文化財課は、平成17年度に東九州自動車道（日向～都農間）19.7kmについて、32遺跡306,700m²の分布調査結果を提示した。その後、当該区間は、平成17年度末までに関係市町との設計協議等が終了し、平成18年度末には用地買収に着手している。この間、当区間の平成26年度供用開始が公表され、用地取得及びそれに続く埋蔵文化財調査にとって時間的に厳しい状況となつた。また、平成19年11月には発掘調査対象面積の見直しがなされ、暫定2車線261,400m²と面積が減っている。

東九州自動車道関連としては初の『埋蔵文化財発掘調査協定書』が平成20年7月1日西日本高速道路株式会社九州支社長と県知事との間で締結された。この協定書では、発掘調査の範囲や体制、全体の実施計画、費用の概算額等が提示された。その後、用地の取得状況が進展しないながらも同年10月17日付けで『埋蔵文化財発掘調査委託契約』を結び、着手できる可能性がある10遺跡3,350m²の発掘調査に着手した。俵石第1遺跡は、この時点で比較的広い面積が確保できていたため、平成20年11月4日にまずA区3,500m²を対象に調査に着手した。その後、順次用地の取得が進んだため、さらにB区、C区9,000m²について調査を進め、平成21年11月2日に調査除外となった1,055m²を含む12,500m²の調査を終了した。その間、平成21年1月には、用地取得や文化財調査の進展を条件に平成25年度の供用開始が努力目標となつたが、関係者の努力により平成22年10月末現在、32遺跡中15遺跡は完全に調査を終了、未着手は3遺跡を残すのみとなつてゐる。

第2節 調査の組織

俵石第1遺跡の発掘調査・整理報告は以下の組織で実施した。

調査主体

宮崎県教育委員会

宮崎県埋蔵文化財センター

(平成20年度)

所長	福永 展幸
副所長	加藤 吾郎
副所長兼総務課長	長友 英詞
主幹兼総務担当リーダー	高山 正信
調査第一課長	長津 宗重
主幹兼調査第二担当リーダー	菅付 和樹

調査担当

主査	横山 正文
主任主事	今塩屋毅行
主事	日高 優子

(平成21年度)

所長	福永 展幸
副所長兼総務課長	長友 英詞
主幹兼総務担当リーダー	高山 正信
調査第一課長	長津 宗重
主幹兼調査第二担当リーダー	菅付 和樹

調査担当

主査	横山 正文
主任主事	今塩屋毅行
主事	日高 優子

整理担当

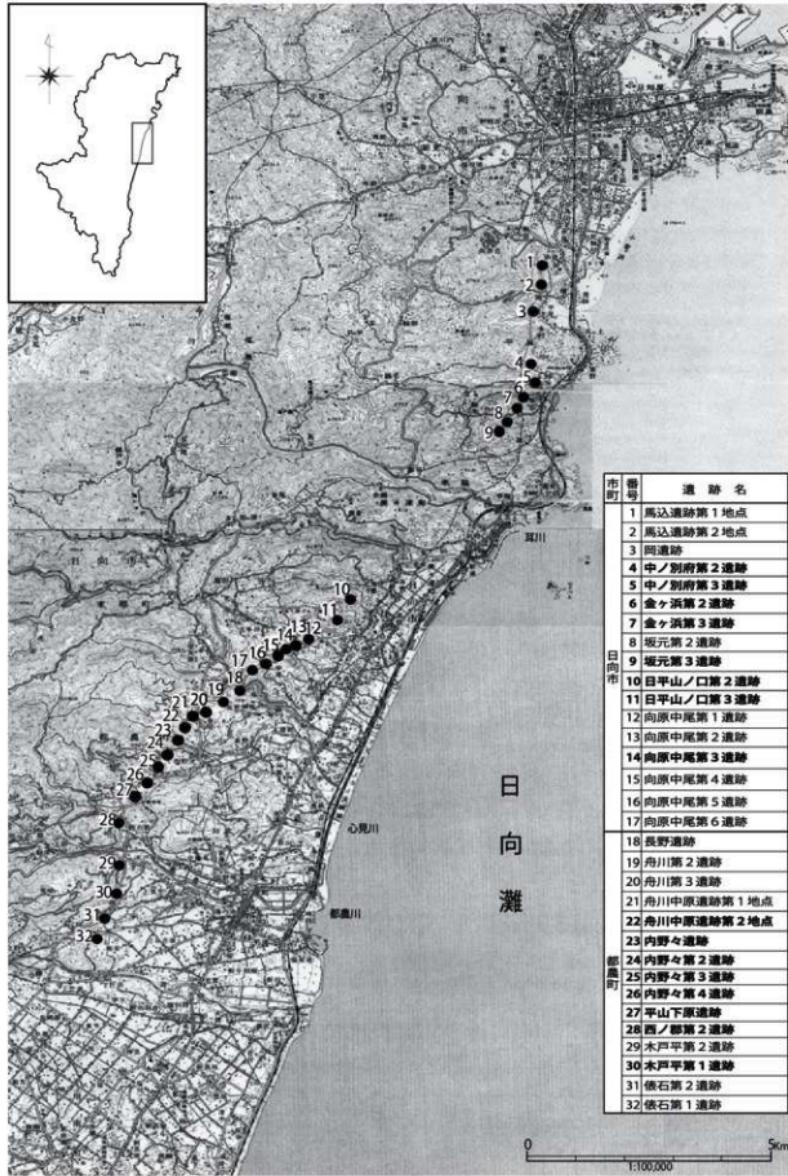
主査	横山 正文
主任主事	日高 優子

(平成22年度)

所長	森 隆茂
副所長	北郷 泰道
総務課長	矢野 雅紀
副主幹兼総務担当リーダー	長友由美子
調査第一課長	長津 宗重
主幹兼調査第二担当リーダー	菅付 和樹

整理担当

主査	横山 正文
主任主事	今塩屋毅行



第1図 東九州自動車道（日向～都農間）関連遺跡位置図

市 町 名	遺跡名	所 在 地	遺跡面積 (m ²)	調査面積 (m ²)	年 度	種別	主な遺構・遺物の時代	調査期間
日向市	1 馬込遺跡第1地点	日向市大字平岩字馬込・字清水ノ元	7,900	130	22	1次	—	H22.5.17 H22.5.21
	2 馬込遺跡第2地点	日向市大字平岩字馬込	1,800					
	3 岡遺跡	日向市大字平岩字岡・字谷口・字三拾歩・字平尾	40,000	140	21	1次		H22.1.14-H22.1.15
				120	21	2次		H22.2.16-H22.2.18
				400	21	3次	縄文〔晩〕、弥生、古代	H22.3.10-H22.3.11
				100	22	4次	近世	H22.6.7-H22.6.8
				60	22	5次		H22.6.7-H22.6.9
				1,870	22	6次		H22.7.7-
	4 中ノ別府第2遺跡	日向市大字平岩字中ノ別府	200	60	21	1次		H21.12.16
				80	22	1次		H22.9.29
				300	30	21	1次	H22.5.25
	5 中ノ別府第3遺跡	日向市大字平岩字ミコノヨ	1,900	10	22	2次	〔旧石器、縄文、古墳以降〕	H21.12.15
	6 金ヶ浜第2遺跡	日向市大字平岩字金ヶ浜・字加原	300	25	21	1次	—	H22.11.1
	7 金ヶ浜第3遺跡	日向市大字平岩字加原	200	16	22	2次	—	H21.12.14
	8 版元第2遺跡	日向市大字平岩字ナガソ・字中高鳥	2,000	10	21	1次	—	H22.5.26
	9 坂元第3遺跡	日向市大字平岩字中高鳥	200	75	21	1次	—	H21.12.14
	10 日平山ノ口第2遺跡	日向市東郷町山陰字日平	1,600	15	22	2次	—	H22.9.30
	11 日平山ノ口第3遺跡	日向市東郷町山陰字日平	4,300	25	20	無調査分	—	H20.11.5-H20.11.10
	12 向原中尾第1遺跡	日向市東郷町山陰字山ノ口	9,300	10	20	1次	〔旧石器、縄文〔晩〕、弥生、古墳、近世〕	H22.6.21-H21.1.6
	13 向原中尾第2遺跡	日向市東郷町山陰字山ノ口	2,400	960	22	2次	—	H22.6.21-H22.7.6
	14 向原中尾第3遺跡	日向市東郷町山陰字山ノ口・字向ヲ原	6,500	1,200	22	2次	〔旧石器、縄文〔早〕〕	H20.12.2-H20.12.15
	15 向原中尾第4遺跡	日向市東郷町山陰字向ヲ原	11,000	190	20	1次	〔旧石器、縄文〔早〕〕	H20.11.17-H20.12.1
	16 向原中尾第5遺跡	日向市東郷町山陰字向ヲ原	2,100	60	21	2次	〔旧石器、縄文〔早〕〕	H21.8.5-H21.8.31
	17 向原中尾第6遺跡	日向市東郷町山陰字向ヲ原	2,300	5,100	22	3次	〔旧石器、縄文〔早〕〕	H22.4.26
	18 長野遺跡	都農町大字川北字境谷	8,400			弥生	—	
都農町	19 舟川第2遺跡	都農町大字川北字境谷・字舟川	10,600	270	21	1次	—	H21.8.5-H21.9.9
				3,000	21	2次	〔旧石器、縄文〔早〕〕	H21.10.26-H22.3.12
				1,400	22	2次	—	H22.4.14-H22.8.20
	20 舟川第3遺跡	都農町大字川北字舟川	16,800	23	23	3次	—	H22.5.6-H22.5.28
	21 舟川中原遺跡第1地点	都農町大字川北字舟川中原	2,600	360	22	1次	〔縄文〔晩〕、弥生〕	H22.4.20-H22.4.21
	22 舟川中原遺跡第2地点	都農町大字川北字舟川中原・字船川尾立	5,000	70	20	1次	〔旧石器、縄文、近世〕	H21.1.15-H21.1.27
	23 内野々遺跡	都農町大字川北字内野後原・字西尾立・字樺谷	14,700	45	21	2次	〔縄文〔早・中・後〕、弥生〕	H21.9.8-H21.9.10
	24 内野々第2遺跡	都農町大字川北字内野後原	6,300	4,700	21	1次	〔縄文〔早・中・後〕、弥生〕	H22.4.23-H22.4.26
	25 内野々第3遺跡	都農町大字川北字西尾立	2,700	10	20	無調査分	—	H21.1.13-H21.1.14
	26 内野々第4遺跡	都農町大字川北字宮原	2,200	1,410	21	1次	〔旧石器、縄文〔早・後〕〕	H21.12.7-H21.2.25
				900	22	1次	〔縄文〔早・中・後〕、弥生〕	H22.5.17-H22.5.24
	27 平山下原遺跡	都農町大字川北字下原・字寺下	18,900	910	22	2次	〔旧石器、縄文〔早〕〕	H20.11.17-H20.11.21
	28 西ノ郡第2遺跡	都農町大字川北字西ノ郡	18,800	150	20	1次	〔旧石器〕	H21.1.28-H21.2.2
				40	21	2次	—	H21.7.16-H21.8.4
	29 木戸平第2遺跡	都農町大字川北字木戸ノ平	8,400	760	21	2次	〔旧石器、縄文〔早〕、弥生〕	H21.3.13-H21.9.2
				1,280	21	3次	—	H21.10.13-H22.1.18
	30 木戸平第1遺跡	都農町大字川北字木戸ノ平・字荒崎平・字馬鹿口・字瓜生尾立	29,500	800	22	4次	〔縄文〕	H22.10.12-
				500	20	1次	〔旧石器〕	H20.12.15-H20.12.25
	31 砥石第2遺跡	都農町大字川北字砥石	10,000	300	21	2次	〔旧石器〕	H21.7.1-H21.7.15
				60	21	1次	〔縄文〕	H22.4.12-
	32 砥石第1遺跡	都農町大字川北字湧牟田	12,500	2,445	20	1次	〔旧石器、縄文〔早〕、弥生〕	H20.11.4-H21.3.31
				9,000	21	2次	〔縄文〕	H21.4.1-H21.11.2
				830	22	2次	〔縄文〕	H22.11.1-

*太字表記は、調査終了了(平成 22 年 11 月現在)

第1表 東九州自動車道（日向～都農間）関連遺跡一覧

第Ⅱ章 遺跡をとりまく環境

第1節 地理的環境

俵石第1遺跡は、都農町大字川北字湯牟田に所在する。遺跡が立地する都農町は、宮崎県中央部よりやや北側、宮崎平野の北端に位置する。

町の北西には九州脊梁山脈から続く山々が連なり、標高1405.2mの尾鈴山がそびえている。

これまで幾度となく繰り返された海進や海退のたびに、尾鈴連山から流れ出る名貫川や都農川、心見川によって次々と新しい扇状地がつくられていった。新しい扇状地は古い扇状地を開拓し、そこにまた新しい砂礫を堆積させることによって新しい扇状地と古い扇状地の間に段差が生じ、数段の河岸段丘が形成され、現在の地形となっている。

遺跡は、名貫川の左岸台地上標高約82mに位置し、南北に細長く延びた調査区を広域農道(尾鈴サンロード)に切られる。遺跡南端は尾立第2遺跡と接し、確認された遺構・遺物から両遺跡は同時期に存在した可能性があることが推測される。

第2節 歴史的環境

俵石第1遺跡がある都農町内には、遺跡詳細分布調査によって多くの遺跡が周知されているが、発掘調査による遺跡の解明はほとんど行われていなかった。しかし、平成17年度以降、東九州自動車道建設に伴う発掘調査が進み多くの成果をあげてきた。

【旧石器時代】

本遺跡は、名貫川を境に隣町の川南町に近接する。近年までは、都農町内で旧石器時代の発掘調査は行われていなかった。しかし、東九州自動車道建設に伴う発掘調査が進む中、立野第5遺跡、立野第2遺跡、尾立第2遺跡、尾立第3遺跡、朝草原遺跡と、周囲の遺跡から旧石器時代の遺構・遺物が確認されるようになった。

【縄文時代】

縄文時代になると、遺跡が高地に立地する傾向が見られるようになる。河川やその支流に近い台地上に遺跡が立地し、周辺の尾立第2、第3遺跡でも遺構・遺物が確認されており、そのほとんどが早期に位置付けられている。

【弥生時代】

弥生時代になると都農町内の遺跡も数多く確認されている。境ヶ谷第1遺跡(岩山遺跡)、新別府下原遺跡、森遺跡、白水遺跡等があり、なかでも新別府下原遺跡では、竪穴住居2軒や土壙1基が検出され、1号住居跡から磨製石庖丁1点、両端抉入石庖丁1点、砥石1点、磨石4点、鉄鎌片が出土し、注目を集めた。

【古墳時代】

都農町内には海岸部に県指定古墳が12基ある。前方後円墳2基、円墳10基で、すべて積石塚である。積石塚は名貫川や海岸に多く見られる大小の石を積み上げて墳丘にしたものであり、県内ではあまり見られず、都農町に集中している。

【古代以降】

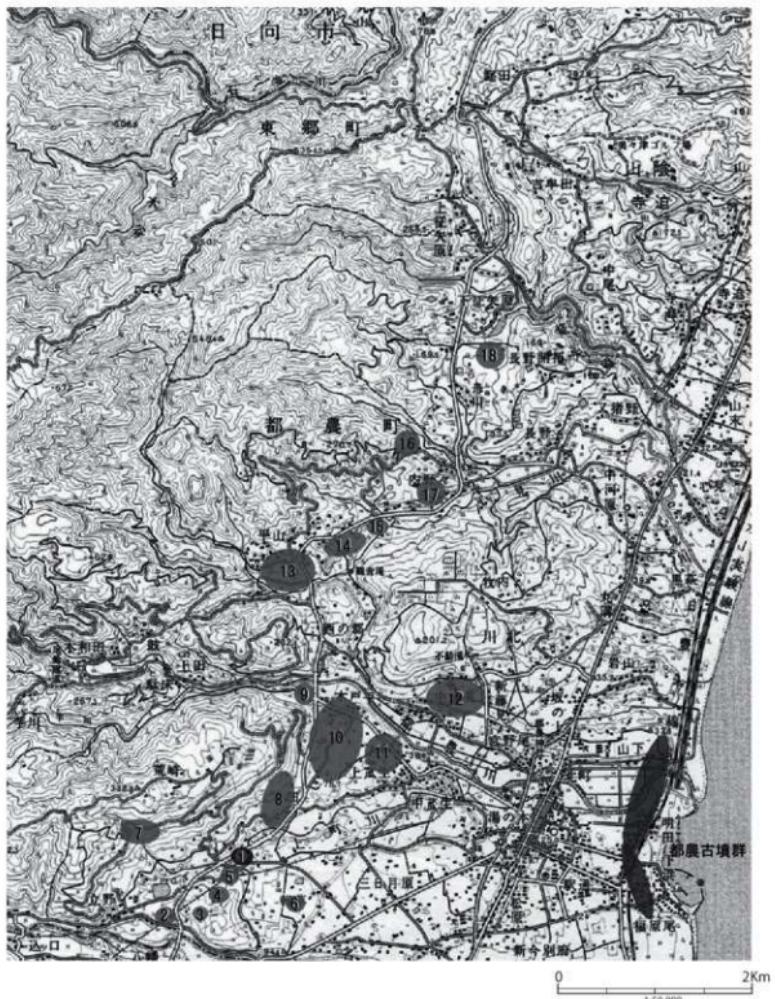
古代においては、『倭名類聚鈔』による「都農郷」、「延喜式」による日向国6牧中の「都農牧」に、日向国16駅の「去飛駅」の記述が認められるが、それと関連づけられる遺跡は未発見である。

近世に入ると都農町は、御城下高鍋町と藩港美々津との中間点にあり、宿駅中宿としての地位を占めていたため、藩は本町に野別府代官所を設置し、周辺数ヶ村の掌握に当たるなど藩施政上の拠点であった。「高鍋藩の都農町」すなわち、藩取立ての在郷町としての性格を有していた。

また、藩財政の最重要財源であった石河内尾鈴の豊富な山林資源と、川北川南一帯の広汎な未開拓丘陵原野をもっており、そこから産出される林業生産物の集荷中心地でもあった。

【引用参考文献】

- 都農町 1998 「都農町史(通史編)」
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2008 「尾立第2遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第169集
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2007 「立野第5・第2遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第156集



- | | | |
|----------|------------|------------|
| 1 傑石第1遺跡 | 7 茂生尾立第1遺跡 | 13 平山遺跡 |
| 2 立野第2遺跡 | 8 傑石第2遺跡 | 14 平山下原遺跡 |
| 3 立野第5遺跡 | 9 木戸平第2遺跡 | 15 内野々第4遺跡 |
| 4 尾立第3遺跡 | 10 馬場口遺跡 | 16 内野々遺跡 |
| 5 尾立第2遺跡 | 11 鹿牟田遺跡 | 17 内野遺跡 |
| 6 朝草原遺跡 | 12 京塚遺跡 | 18 舟川第2遺跡 |

第2図 周辺遺跡分布図

第三章 調査の経過と方針

第1節 発掘調査の経過

調査区の面積は、12,500m²で便宜上3つに区分し、それぞれA区、B区、C区とした。

平成20年11月4日～平成21年11月2日の調査は、A区→B区→C区の順で行った。

A区の調査では、9つの先行トレンチを入れ土層の堆積状況や遺構・遺物の疎密、調査区の傾斜等について人力での掘削調査を行った。その結果、調査区北東部に向かって緩やかな谷地形が確認され、遺構・遺物は土坑1基、剥片数点が検出されたのみであった。

11月4日から6日までの3日間、層の残存状況を確認しながら重機による表土除去を行った。

K-A(h)(II層)上面を精査したところ、水穴や流路痕、風倒木痕、弥生土器の小片を含む竪穴建物跡が検出された。11月10日より作業員を投入し、包含層の掘削を行う。III層～IV層で陥り穴状遺構、IV層～IX層で多数の石器が確認された。

B区の調査は平成21年2月20日より調査の都合上B区北側、B区斜面地、B区平坦部に分けて調査を行った。5か所に先行トレンチを設定し、人力での掘削を行った。調査区西側に向かって下る斜面では表土除去後すぐに礫層となり、調査区のほぼ中央に位置する平坦部では、石器群が検出された。そこで、中央平坦部を中心には根筋に沿ってグリッドごとに包含層掘削を行った。

B区北側では、II層までを、南側ではI層を重機で除去し、その後人力掘削による調査を行った。III～IV層は全面調査を行い、V層以下はトレンチ調査を行った。

B区斜面地は重機により表土を除去した後、III～VI層まで人力によるトレンチ調査を行った。調査中にトレンチ内に水穴が確認されたために調査を打ち切った個所もあった。

B区平坦部については、地形と先行トレンチの結果から包含層が残存しないと判断されたことから、重機による遺構確認のみの調査を行った。層ごとに掘削したが、遺構等は確認されなかった。

平成21年3月2日よりB区の調査と並行してC区橋脚部分の調査を開始した。先行トレンチ調査により、礫群と思われる遺構が数基検出された。表土を重機で除去したところ、IV層まではほとんど残存していなかった。人力掘削によりV～VI層までを全面調査し、VII層以下はトレンチ調査を行った。

各調査区、包含層内より出土した遺物については電子平板による取り上げを行った。また、遺構についても同様に、電子平板による検出位置の記録を行った。

調査の結果、IV層～IX層より後期旧石器時代、縄文時代早期、弥生時代の遺構・遺物が確認された。検出された遺構は、原則として1/10の縮尺で図化を行い、写真撮影等の記録を進めた。

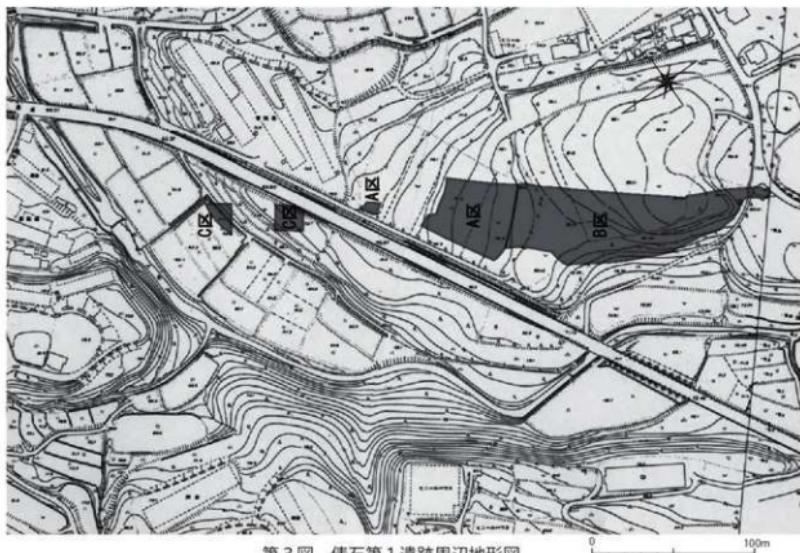
第2節 整理作業の経過

整理作業は、平成21年11月2日から宮崎県埋蔵文化財センター本館内で開始し、水洗、注記、計測、接合、実測、製図を経て、平成22年11月に終了した。

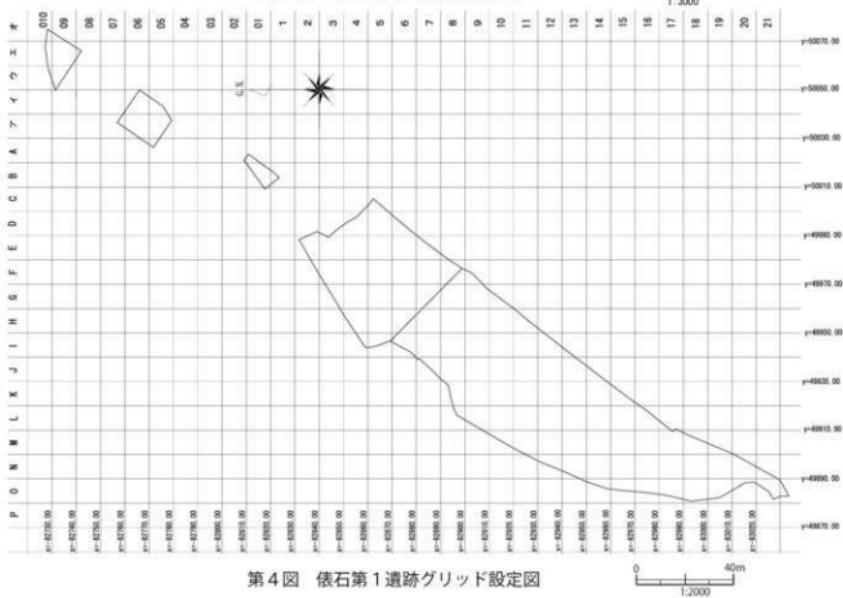
石器は、接合作業を行いながら、色調、手触りを重視して石材を分類した。黒曜石については、肉眼による分類を行うとともに、明治大学の協力により、蛍光X線分析による产地推定を行った。

石器の実測は、石鏃、ナイフ形石器、細石刃核、接合資料等剥離が細かいもの、あるいは技術や時間を要するものについては業者に委託し、残りはセンターで実測した。

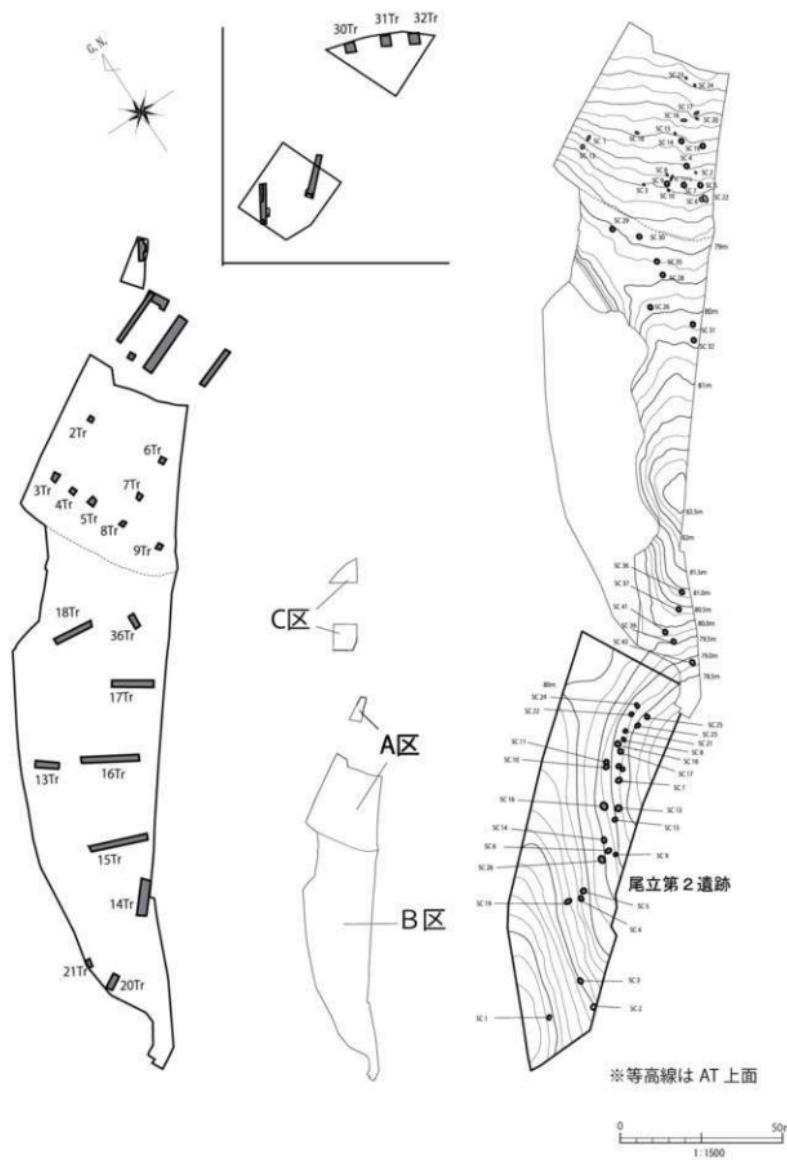
礫の整理は水洗、注記、計測、接合の各作業を実施した。計測は礫の法量、重量、石材の他に、礫に残された付着物、赤化、破損状況などを記録した。



第3図 倭石第1遺跡周辺地形図



第4図 倭石第1遺跡グリッド設定図



第5図 先行トレンチ配置図・土坑分布図(尾立第2遺跡との関連)

第3節 教育普及活動



整理作業風景 1（石器接合作業）

東九州自動車道建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査では、地域の貴重な埋蔵文化財を広く地域住民に還元するという観点から教育普及活動を行っている。

本遺跡では、21年度に2回の教育普及活動（発掘体験活動）を実施した。

①平成21年6月29日

都農町立都農南小学校の6年生児童38名

②平成21年8月26日

宮崎県内の公立学校初任者教諭15名



整理作業風景 2（碟接合作業）



教育普及活動 1（発掘体験）



整理作業風景 3（データ入力等）



教育普及活動 2（発掘体験）

第IV章 調査の記録

第1節 基本層序

基本層序を設定するにあたって、G 7Gr の南西壁を土層観察用の壁面として利用した（巻頭図版2）。土層は、土質によりI～XI層までの層に分層した。各層の詳細は次項に示している。

本遺跡の土層の堆積は一定ではなく、旧地形はH Gr～J Grを尾根として東西に向かって傾斜している。A区を中心とする東側は、調査開始時、梅林に利用されていたことや水穴・自然流路による擾乱を受けていたため、I層は部分的に確認できたもののはほとんど残存しておらず、II層（K-Ah）の堆積状況もあまり良くなかった。

尾根部分に当たるH Gr～J Gr（B区）では、I～XI層まで層厚の差はあるものの、全体的に良好な堆積状況であった。B区は尾根部分から南西に細長く延びた調査区で、H 10Grまでは緩やかに上っており、そこからN 20Grに向けて下る地形となっている。K 14Gr周辺は、畑に利用されていたということもあり、I層以下IV層までは残存していなかった。また、V層以下の層厚も薄く、30cmほど掘り下げると礫層が検出された。

L 14GrからN 20Grに下る斜面は、防風林として杉が植栽されていたため、各層の堆積は確認されたものの、根による擾乱を受けていた。

また、本遺跡では、土層中にいくつかの火山灰が確認された。K-Ahは調査区のほぼ中央が一番厚く堆積しており、東西の傾斜に沿って次第に薄くなっていた。A-Tは調査区全面に堆積していた。これらの火山灰は、色調・土質に特徴があるため他のローム層との対比は容易であったのに対し、IV層～VII層にかけての堆積層の中では目視での火山灰の確認は困難であったため、テフラ分析を行った。その結果、IV層中に桜島薩摩テフラ（S z-S : 約1.28万年前）、V層中に霧島小林テフラ（K r-K b : 約1.67万年前）、VII層中に姶良深港テフラ（A-Fm : 約3.1万年前）や姶良大塚テフラ（A-O t : 約3.25万年前）に由来するテフラ粒子が含まれていることが判明した。

なお、東九州自動車道（都農～西都間）の調査では、宮崎平野部で認められるテフラやロー

ム層、黒色帯に共通の略称を用いている。第6図に示したMB0やML1等がこの略称にある。ただし、本遺跡が所在する都農町は宮崎平野の北端にあたり、共通認識としてとらえられてきた宮崎平野部の基本層序にそぐわないことも確認されてきている。

宮崎県埋蔵文化財センター『東九州自動車道（都農～西都間）開通埋蔵文化財発掘調査概要報告書VI』2006

耕作土		
I	黒色土（クロボク）	
II	黄褐色砂質土 鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah）	
III 黒色土（MB0）		
IV	暗褐色土（ML1上部相当）	桜島薩摩 (S z-S)
V a	黒褐色土（ML1下部相当）	霧島小林 (K r-K b)
V b	黒褐色土（ML1下部相当）	
VI	明褐色土（ML2相当）	
VII	明黄褐色砂質土 姶良Tn火山灰（A-T）	
VII a	黒色土	MB2相当
VII b	明褐色粘質土	姶良深港（A-Fm） 姶良大塚（A-O t）
IX	暗赤褐色粘質土（ML3相当）	
X	赤褐色粘質土	
XI	にぶい黄橙色（礫層）	

第6図 倭石第1遺跡基本土層図

【基本層序】

表土（耕作土）

I層： 黒色土 (Hue7.5YR1.7/1)
調査区全体としては残りが良くない。
B区南面で一部確認された。しまり、
粘性ともに弱い。クロボク

II層： 黄褐色砂質土

鬼界アカホヤ火山灰 (K-Ah)
しまり、粘性共に弱い。粗粒でざらざ
らしている。

III層： 黒色土 (Hue10YR2/1)

しまり、粘性ともに弱い。いわゆる
MBOである。
遺物包含層

IV層： 暗褐色土 (Hue10YR3/1)

しまりはやや強く、粘性がある。ML1
上部に相当する。
遺構検出層・遺物包含層

Va層： 黑褐色土 (Hue10YR3/2)

しまり、粘性ともに強い。Vb層に比
べ黒味が強い。ML1下部に相当する。
遺構検出層・遺物包含層

Vb層： 黑褐色土 (Hue10YR3/2)

しまり、粘性ともに強い。Va層に比
べ黄味が強い。ML1下部に相当する。
遺構検出層・遺物包含層

VI層： 明黃褐色土 (Hue10YR6/6)

AT由来の白い粒子を含む。しまりは強
いが、粘性は弱い。ML2に相当する。
遺物包含層

VII層： 明黃褐色砂質土 (Hue10YR6/8)

1mm 大のオレンジ粒子を多く含む。
粗粒でざらざらしていて粘性が非常に
弱い。始良 Tn 火山灰。

VIII層： 明褐色粘質土 (Hue7.5YR5/8)
AT由来の白い粒子を含む。しま
りはやや強く、粘性は強い。小礫
を含む。遺構検出層・遺物包含層

IX層： 暗赤褐色粘質土 (Hue5YR3/6)
しまり、粘性ともに強い。ML3
に相当する。遺物包含層

X層： 赤褐色粘質土 (Hue5YR4/8)
しまり粘性ともに強い。

XI層： にぶい黄橙色 (Hue10YR6/4)
巨礫を含み、しまり、粘性ともに
強い。礫層。

【尾立第2遺跡の基本層序との対比】

尾立第2遺跡	俵石第1遺跡
I層	耕作土
II層	クロボク
IIIa+b層	K-Ah
IV層	MBO
V層	ML1上
VIa層	ML1下
VIb層	
VIIa層	MB1
VIIb層	—
VIIc層	ML2
VIIa+b層	AT
VIIa層	MB2
VIIb層	MB3
—	VIIb層
X層	ML3
XI層	X層
XII層	XI層

【土層堆積時の環境推定】

俵石第1遺跡の発掘調査では、Ⅲ層～VI層、VII層、IX層から遺物が出土した。そこで、各層当時の周囲の植生や環境を把握する目的で、テフラ分析や植物珪酸体分析等を委託した。ここでは、その結果について各層ごとに概要を示した。詳細な分析結果は第V章にて掲載している。

〔基本層序と自然科学分析結果の関係〕

IV層：桜島薩摩テフラ (Sz-S, 約1.28万年前) が検出された。

V層：霧島小林テフラ (Kr-Kb, 約 1.67 万年前) が検出された。

VI層：VIa層中に始良Tn火山灰(AT.約2.6～2.9万年前)に由来するテフラ粒子が含まれていると考えられる。

VII層：上・中層には、姶良深港テフラ（A-Fm、約3.1万年前）や姶良大塚テフラ（A-Ot、約3.25万年前）に由来するテフラ粒子が含まれていると考えられる。

VII層上部の堆積当時は、ササ属（おもにミヤコザサ節）を主体としたイネ科植生と考えられるが、IX層の時期よりもササ属（おもにミヤコザサ節）が多く生育し、メダケ属（ネザサ節）もみられたと推定される。また、少量ながらメダケ属（ネザサ節）もみられることから、当時はIX層の時期よりも相対的にやや温暖な気候であった可能性が考えられる。

ササ属などの笹類は、1年を通して常緑なので遺跡周辺に豊富に存在したことは、当時の動物相を考える上でも重要なと考えられる。

なお、Ⅶ層の堆積年代を把握するために、植物珪酸体による放射性炭素年代測定を実施したが、従来の測定値よりも新しい年代が得られている。

IX層：ササ属（おもにミヤコザサ節）を主体としてキビ族やウシクサ族なども見られるイネ科植生であったと考えられ、周辺には何らかの樹木（広葉樹）が生育していたと推定される。当時は寒冷で積雪（降水量）の少ない比較的乾燥した環境であったと考えられる。

第2節 石材の分類基準

石器石材は、色調や礫面の特徴、手触り、風化の状況及び隣接遺跡である尾立第2遺跡の分類基準を参考にして分類を行った。各石材の同定にあたっては、松本・茂氏の協力を得て、横山が決定した。

石材名称については、尾立第2遺跡の分類基準を参考に名称を付した。

黒曜石は、肉眼により観察される情報により分類を行い、それをもとに蛍光X線分析による黒曜石産地推定分析を行った。その分析結果から得られた石材の特徴を採用して最終的な石材産地の推定を行った。

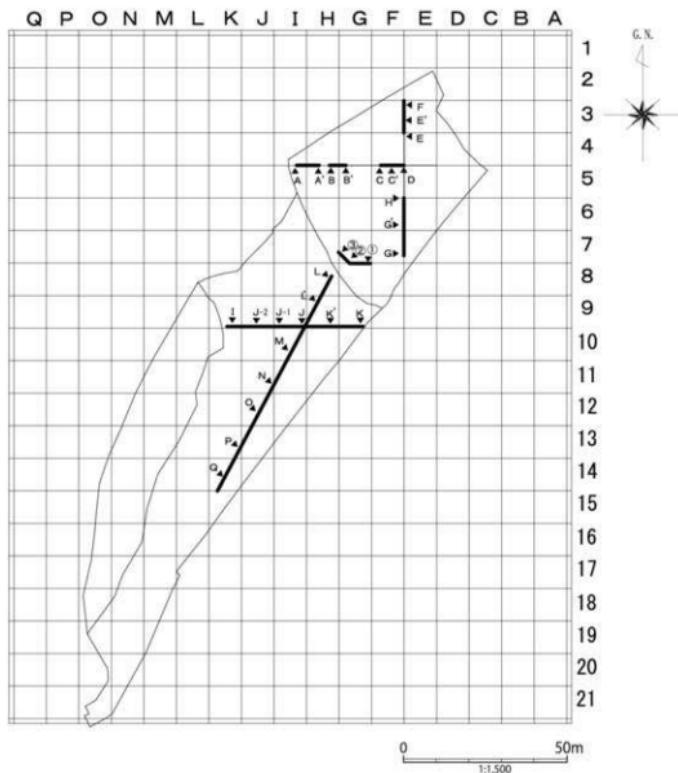
分析および検討の結果、黒曜石1類は人吉桑ノ木津留群、黒曜石2類は大口日東群、黒曜石3類は樋脇上牛鼻群、黒曜石4類は腰岳産、黒曜石5類は姫島産と推定された。

また、分析の結果データベース上ではなく、産地不明または測定不可のものについては、1～5類のいずれにも属さないものとして6類とした。

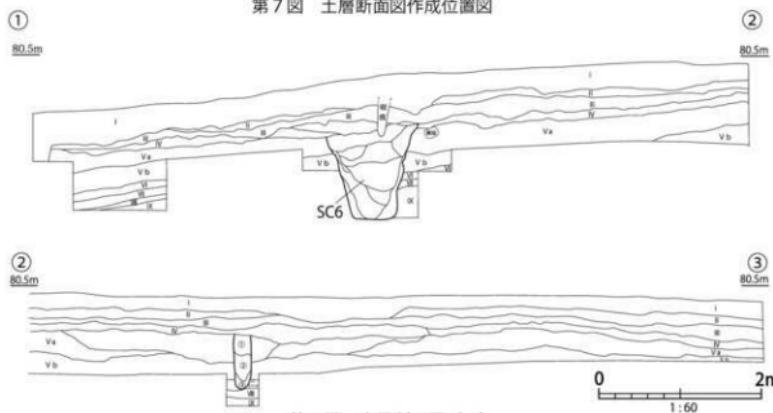
尾立第2遺跡で『尾立第2OX群』と名称づけられた黒曜石との関連も検討した結果、色調や礫面の特徴、手触りだけでの判断となつたため断定はできないが、『尾立第2OX群』と思われるものを確認された。

石材名	石碑の特徴
霞ヶ原	白色に通じ、ツヤがあるもの、黒をくすむ等のパリエーションがある。黒色を少し含む時は黒色の斑点が混在する。
ホルンフェルス	黒でツヤがあるものと光沢感は異なるものがある。黒雲母からである。黒化が進むと、黒いいたるはう色になってしまっているもの。
魔岩	黒化が進んで黒色のみで白色があり、黒をくすむのと並んで見なされているもの。
霞ヶ原	表面がつやつやして鏡面を呈し、1mm~5mmの粒状を含む。
霞ヶ原	黒色を含むとし、黒・黒褐色を呈する。
チャート	白、白等のパリエーションが多く、無色のものも存在する。
水晶	無色透明で光沢がある。石英の中でも透明度が最も高いもの。
砂岩	颗粒から黄土色を呈し、肉眼で構造が確認できるもの。 断面を観ると、画面が斜面で傾いて見える。
尾瀬・巣生岩	斜面が灰色を呈し、白色に變る。
阿寒・深山岩	表面がつやつやして黒いコロニー色、オレンジ色の不純物を含む。
黒曜石1種	透明白(青)色を呈する。わずかに不純物を含むものもある。(人骨/木骨部)
黒曜石2種	黒色で透明白が弱い。不純物を多く含む。(枕木/骨部)
黒曜石3種	全般黒色で、白い部分はない。透明白は薄い。(黒曜石1種類)
黒曜石4種	透明白で透明白がない。(儀仗)
黒曜石5種	黒白相間。M1種以下で、電子顕微鏡で観察される。(儀仗)
黒曜石6種	1種と5種と似た、産地不明または判別不能で「尾瀬2種類」と思われるもの。

第2表 石器・石材分類表

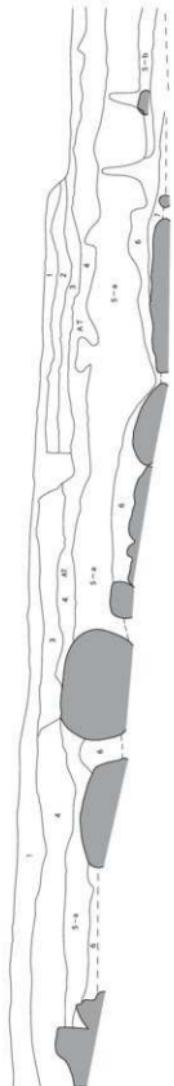


第7図 土層断面図作成位置図



第8図 土層断面図（1）

79.2m A'



- 1 : 黒褐色土。 (10YR3/2) しまりが強く粘性がある。 黒みが強い。(Vb層)
- 2 : 黒褐色土。 (10YR3/2) しまりが強く粘性がある。 AT由来の白い粒子を含む。(Vb層)
- 3 : 明褐色土。 (10YR6/8) 層厚は3mで20mmを測るが部分的に上層部が削り取られる。
- 4 : 明褐色土。 (10YR6/8) オレンジ色の粒子を多く含む。 相対でざらざらして粘性が弱い。(Vb層)
- 5-a : 明褐色粘質土。 (10YR3/4) AT由来の白い粒子を多く含む。 黒みが強い。(Vb層)
- 5-b : " " " 黒褐色粘質土。 (10YR3/4) しまりが強く、粘性がある。
- 6 : 明褐色粘質土。 (5YR4/6) しまりがあり粘性もある。(V層)

78.3m B'



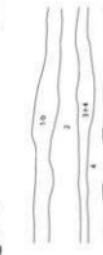
- 1 : 黑褐色土。 (10YR3/2) しまりが強く粘性がある。 黒みが強い。(Va層)
- 2 : 黑褐色土。 (10YR3/2) しまりが強く粘性がある。 AT由来の白い粒子を含む。(Vb層)
- 3 : 黑褐色土。 (10YR6/8) しまりが強く粘性がある。 AT由来の白い粒子を含む。(Vb層)
- 4 : 明褐色土。 (10YR6/8) オレンジ色の粒子を多く含む。 相対でざらざらして粘性が弱い。(Vb層)
- 5-a : 明褐色粘质土。 (5YR4/6) しまりがあり粘性もある。 ATをブロック状 (2~5mm大) に含む。
- 5-b : " " " しまりがあり粘性もある。
- 6 : 明褐色粘质土。 (5YR5/6) 粘膜を含む。 しまり粘性とともに強い。(X層)

78.3m C'

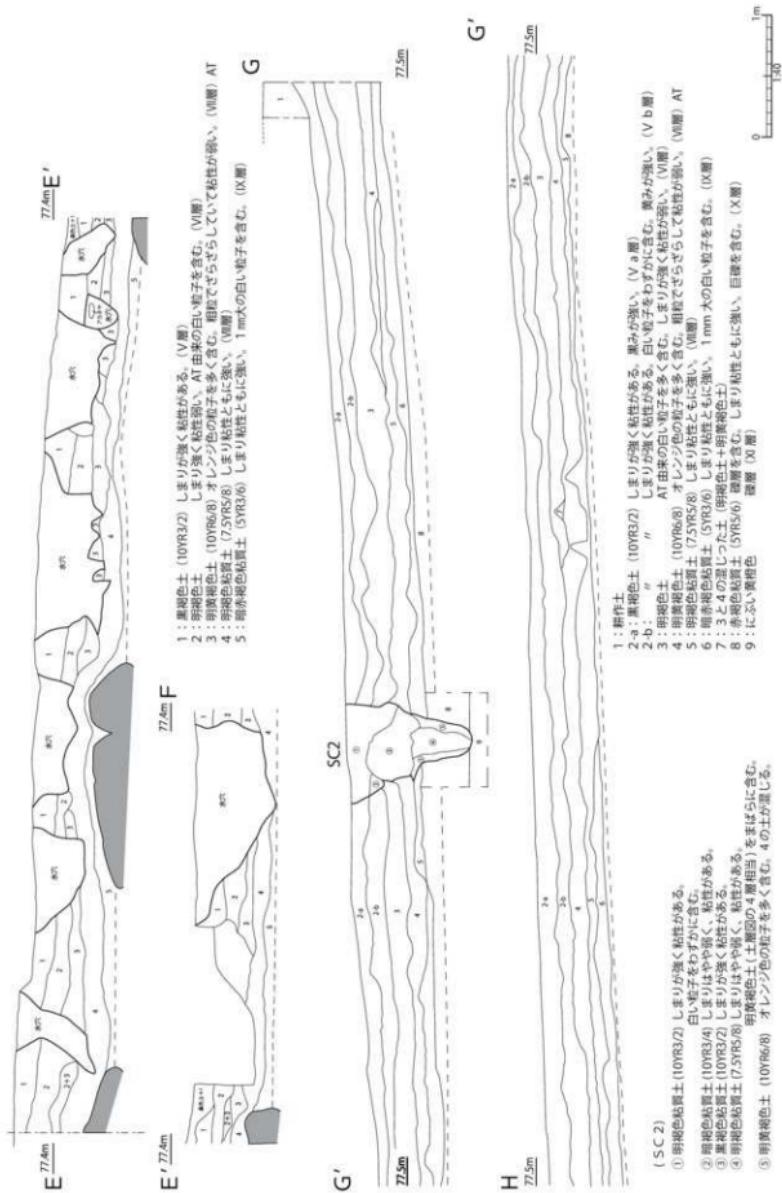


- 1-a : 黑褐色土。 (10YR3/2) しまり粘性とともに強い。(Va層)
- 1-b : " " しまり粘性とともに強い。(Vb層)
- 2 : 明褐色土。 (10YR6/8) しまり粘性とともに強い。 AT由来の白い粒子を含む。(Vb層)
- 3 : 明黄褐色土。 (10YR6/8) オレンジ色の粒子を多く含む。 相対でざらざらしている。 粘性弱い。(Vb層)
- 4 : 明褐色粘质土。 (10YR3/4) しまり粘性とともに強い。 AT由来の白い粒子を含む。(Vb層)
- 5 : 明褐色粘质土 しまり粘性とともに強い。(X層)

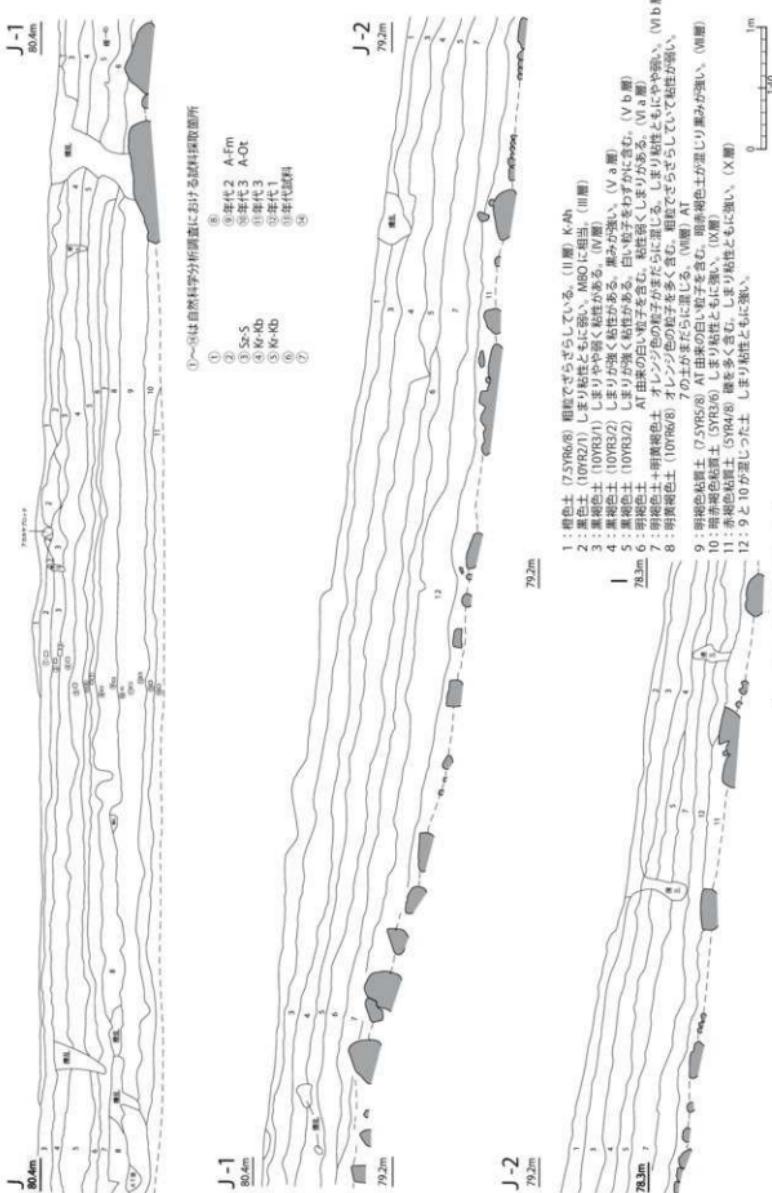
78.3m C'



第9図 土層断面図

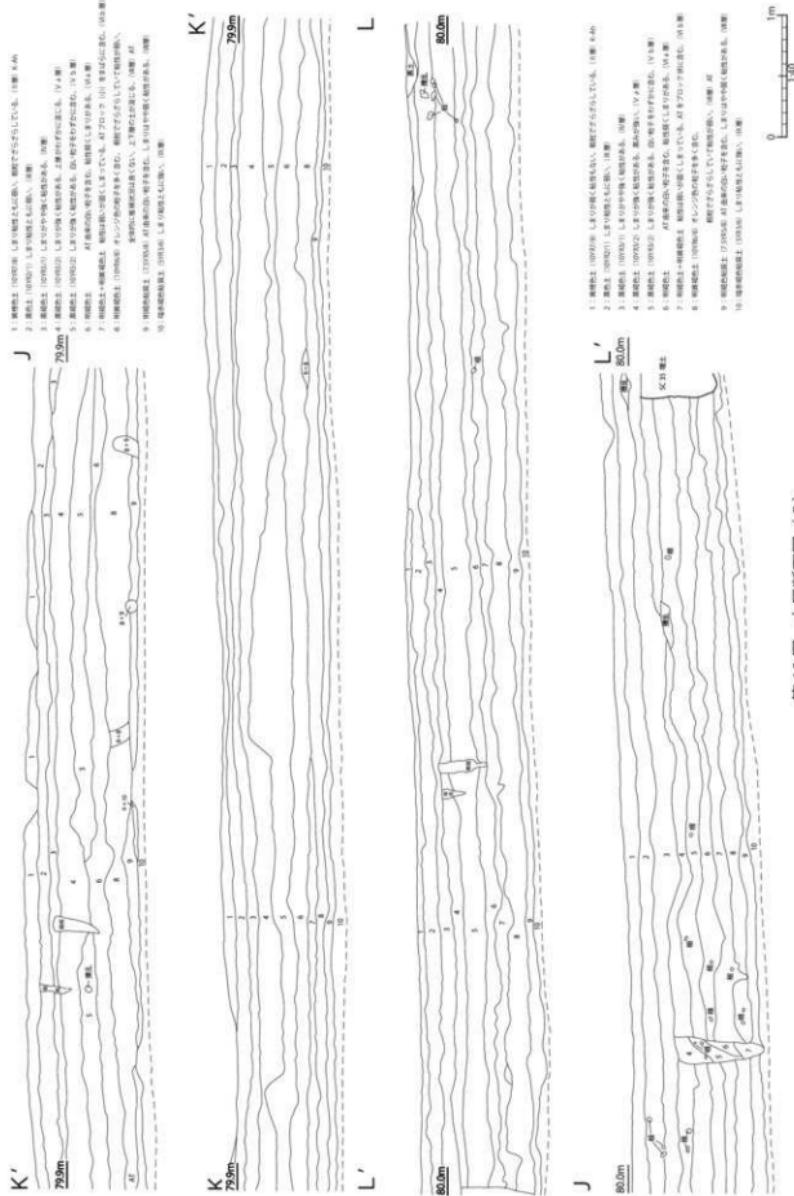


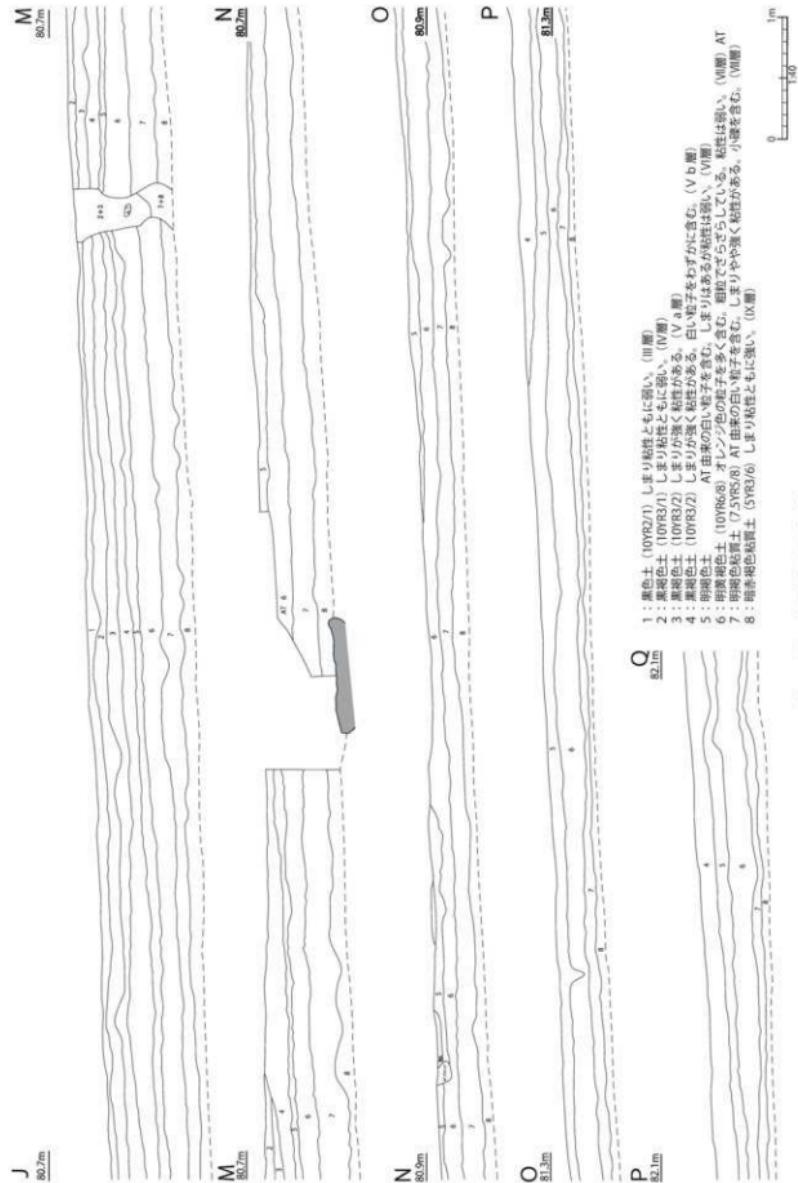
第10図 土層断面図 (3)



第11図 土層断面図 (4)

第12図 土層断面図（5）





第13図 土層断面図（6）

第3節 後期旧石器時代文化層の認識

本報告書では、後期旧石器時代の時代細分について以下のように取り扱った。

I期

AT（VII層）下位のIX層から出土した石器。AT直下のVIII層とは遺物量や出土した石材に違いがみられること、遺構が検出されなかったことからI期とした。

II期

AT下位のVIII層から出土した石器。I期では出土しなかったナイフ形石器や削器、搔器など製品が出土していること、他の層では見られない石材（阿蘇溶結凝灰岩）が出土していることからII期とした。

III期

AT上位のVI層から出土した石器。II期では見られなかった角錐状石器や剥片尖頭器が出土したことからIII期とした。

IV期

V層から出土した石器。I～III期と比べ、遺構・遺物が格段に多く確認された。出土した遺物の様相がIII期のそれと異なっていることからIV期とした。

V期

IV層で出土した石器。主に細石刃や細石刃核が出土したことから、V期（細石刃文化期）とした。

第4節 後期旧石器時代I期

概要

基本層序のIX層（ML 3相当）で出土した遺物を主体とする文化期を後期旧石器時代I期として報告する。

礫群や土坑といった遺構は確認されていない。上層のVIII層とでは石器の器種と石材で相違がみられたためI期とした。

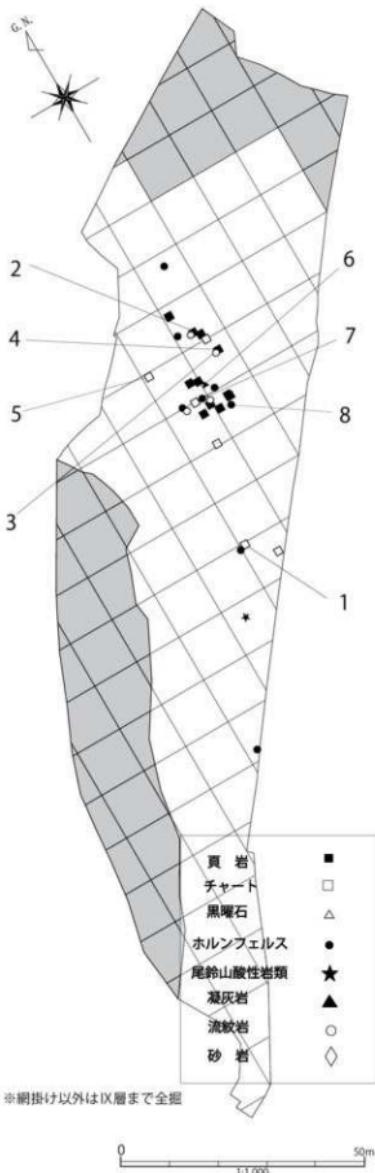
また、I期の調査はグリッドを四分割し、遺構・遺物の検出・出土状況を確認しながら拡張していく方法で調査したため、調査区全面の調査は行っていない。

石器の分布

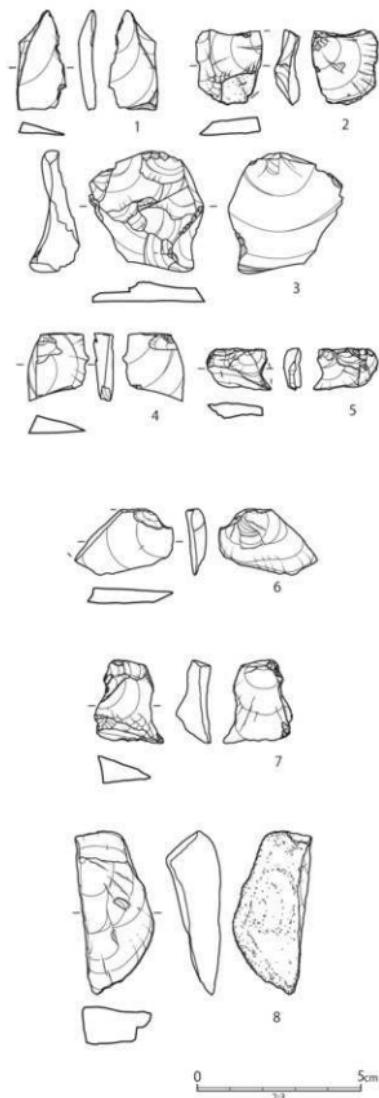
チャートや頁岩、ホルンフェルスなどの剥片が出土している。石器の分布はH 9Gr、I 9Grの丘陵尾根線上からH 6Gr方向へ北側に広がる緩斜面に分布している。

石器

1、5はチャート製の剥片である。2、3は頁岩製の剥片である。4はガラス質流紋岩製の剥片である。6は凝灰岩製の剥片である。7、8Grはホルンフェルス製の剥片である。主にH 7Gr～I 2Grを中心として出土しているが、特に加工を施された形跡は見当たらなかった。



第14図 後期旧石器時代I期石器分布図



第15図 後期旧石器時代Ⅰ期石器実測図

第5節 後期旧石器時代Ⅱ期

概要

基本層序のⅧ層で出土した石器を中心とする遺物を主体とした文化期を後期旧石器時代Ⅱ期として報告する。遺構は砾群4基が検出された。遺物はナイフ形石器をはじめ削器、搔器、石核、二次加工剥片と、多様な器種が出土している。

また、Ⅱ期の調査もグリッドを四分割し、遺構・遺物の検出・出土状況を確認しながら拡張していく方法で調査したため、調査区全面の調査は行っていない。

遺構の分布

調査区A・B区の南側からK 15GrにS I 14、K 14GrにS I 15、I 8GrにS I 13、H 6GrにS I 5が位置している。なお、C区では検出されなかった。

砾群はH 9Gr付近を最高所として、北側に向けて延伸する丘陵尾根上に点々と位置しており、密集するあり方ではない。構成砾は他の文化期と同様に尾鈴山酸性岩類である。

砾群の構造は、S I 14 (K 15 Gr)・S I 15 (K 14 Gr) のように規模は小さいが砾は密集するものと、S I 5・S I 13 のように大きいが散在するという形態上の違いがある。

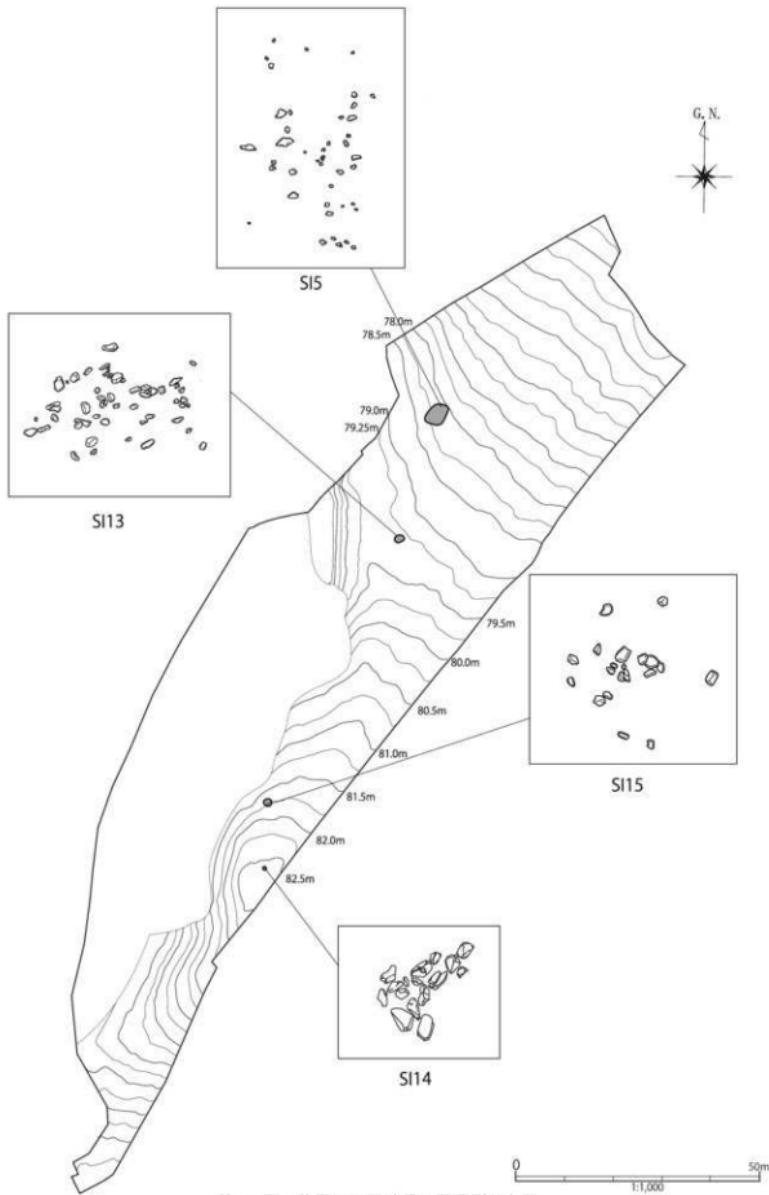
石器の分布

I 7・8Gr、J 7・8Grの4Grを中心に集中して出土しており、I期同様丘陵尾根線上に分布している。多様な器種、石材が出土しているが、他の文化層では確認されなかった阿蘇溶枯凝灰岩の剥片が、Ⅷ層でのみまとめて出土した。

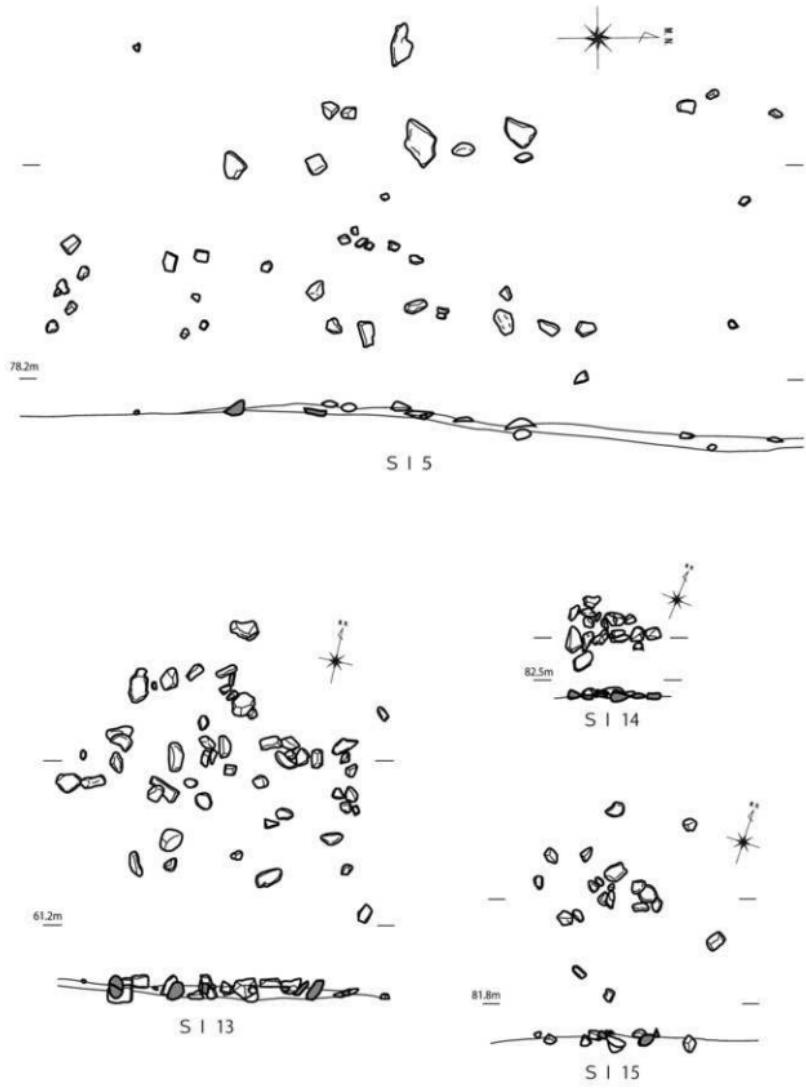
また、水晶製のナイフ形石器や多くの剥片がI 8GrとJ 8Grで集中して出土している。

石器

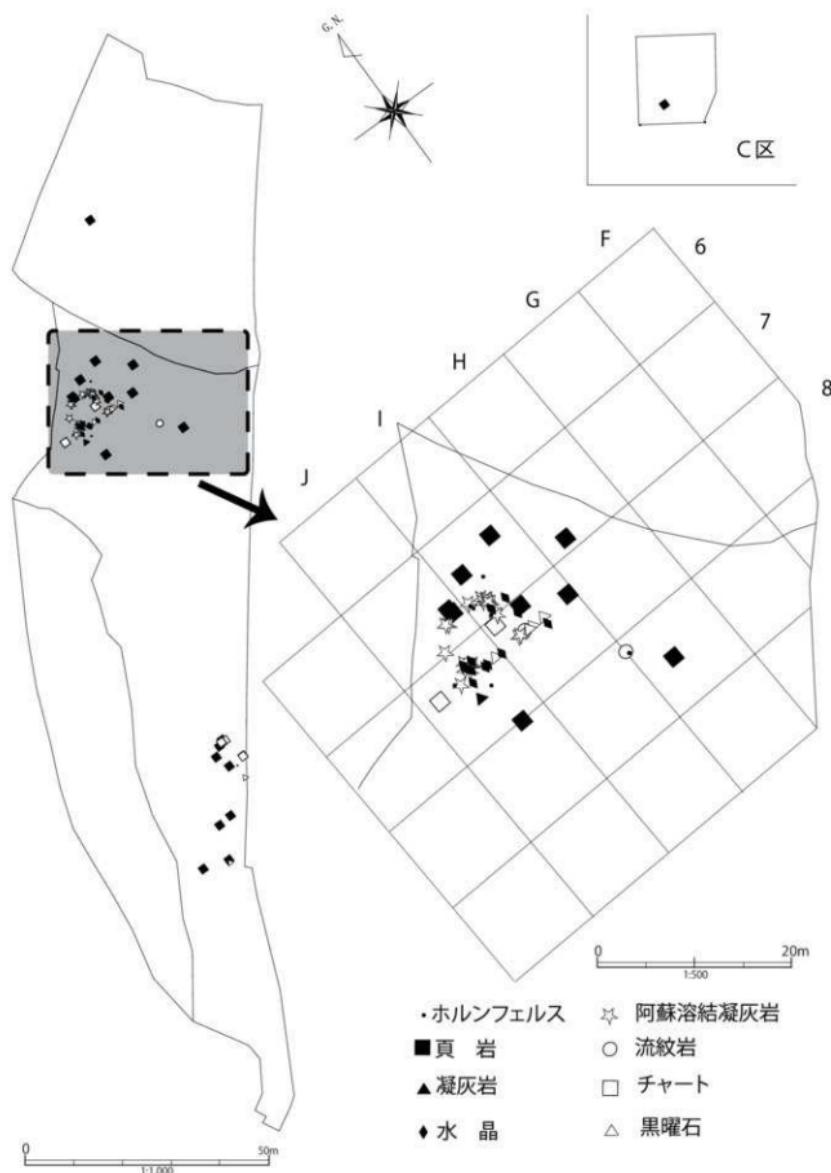
ナイフ形石器(9~14)のうち、9、11、12、14が頁岩製で9、12は正面左側縁に加工が施されている。11は左側縁に細かな加工が施されており、右側基部にも二次加工が入る。14は二側縁加工である。



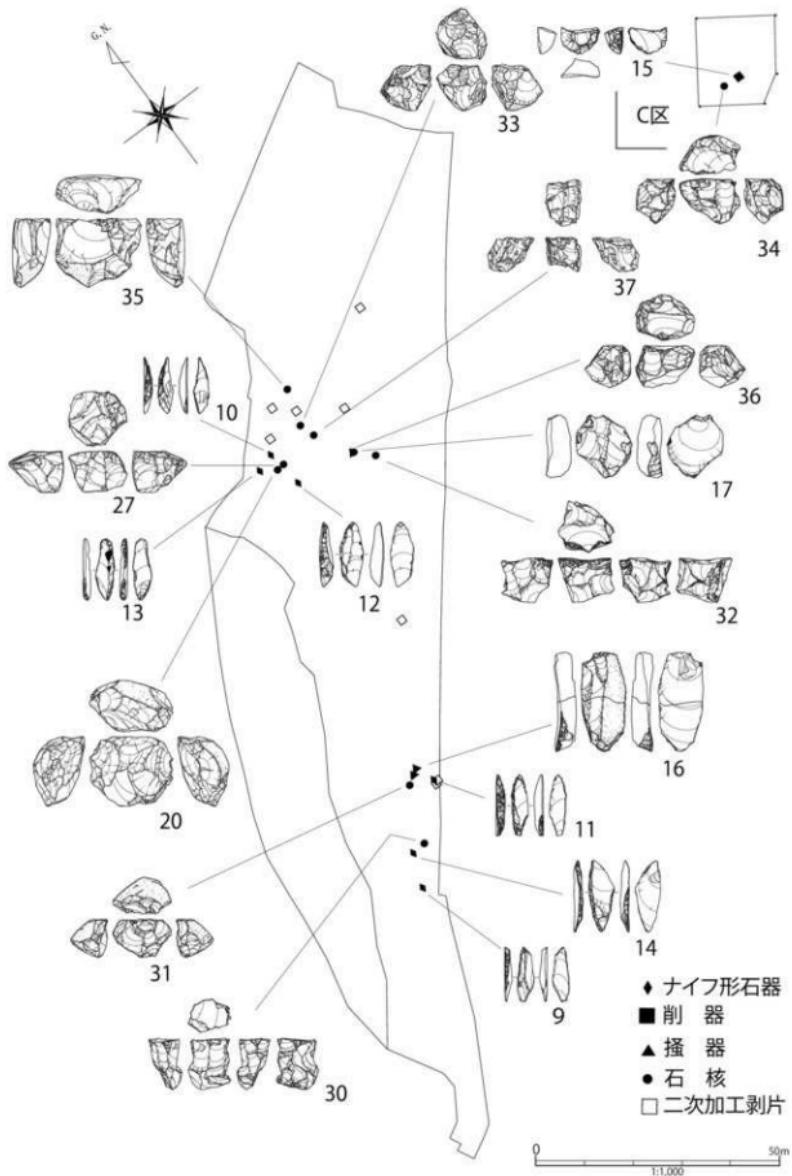
第16図 後期旧石器時代Ⅱ期礫群分布図



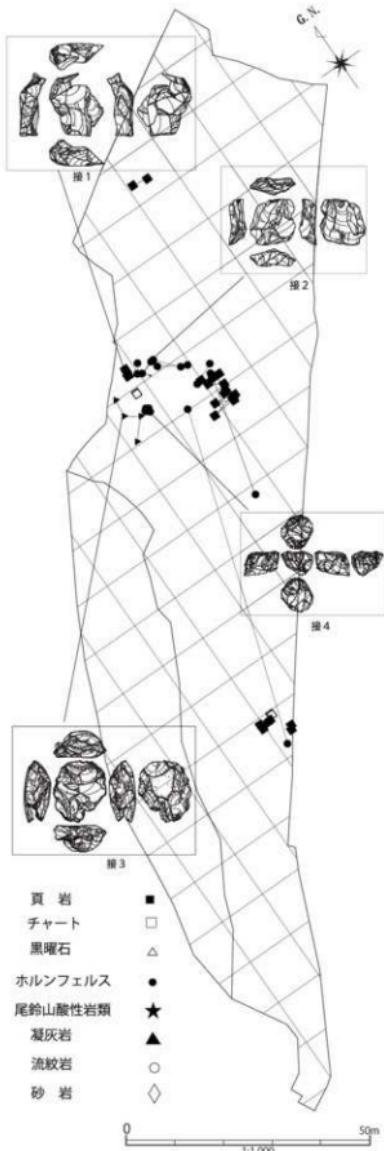
第 17 図 後期旧石器時代 II 期 碓群実測図



第18図 後期旧石器時代II期石材分布図



第19図 後期旧石器時代II期石器・器種別分布図



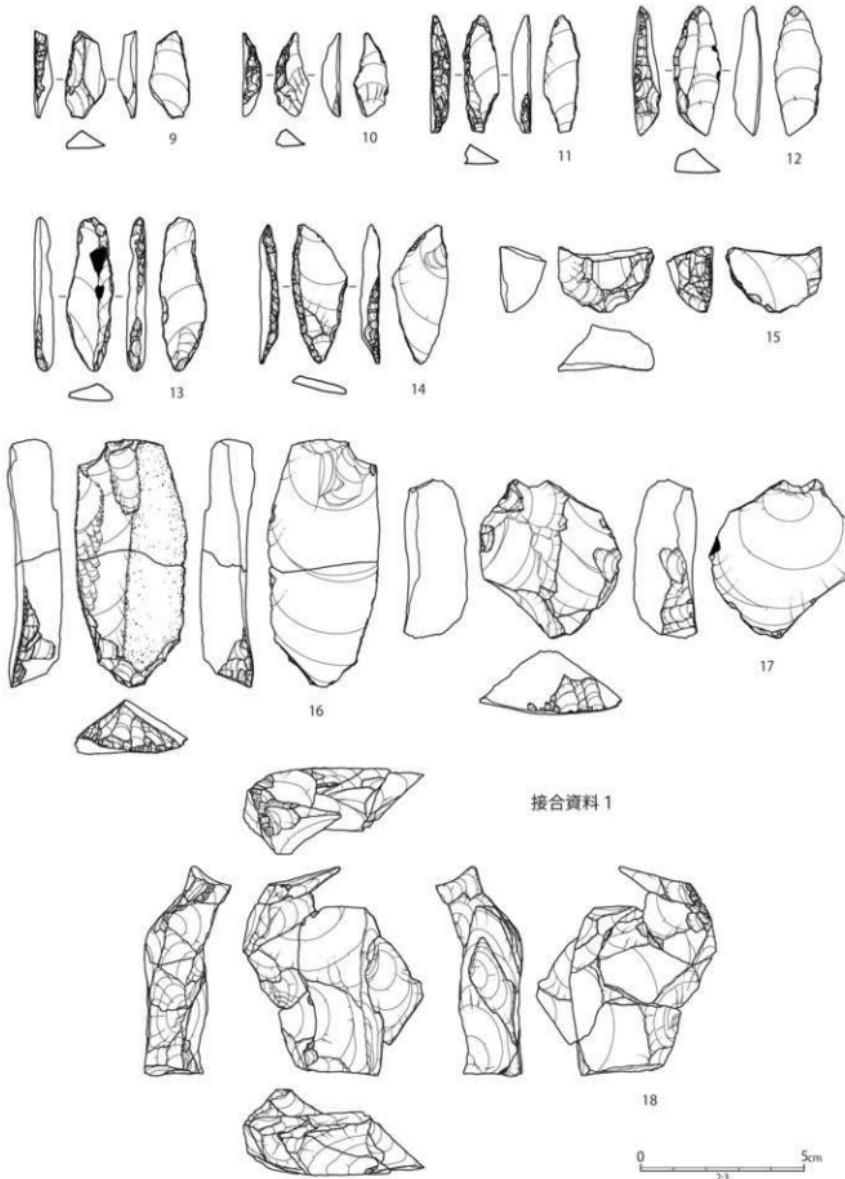
第20図 後期旧石器時代II期石器接合状況図

15は貝岩製の削器である。16は貝岩製、17は流紋岩製の搔器である。16は正面に礫面を残し、左側縁から下端部にかけて加工を施している。17は下端部に加工が認められる。

18は貝岩製の接合資料1である。19はホルンフェルス製の接合資料2である。20は接合資料3に接合する凝灰岩製の石核である。21～26、28は接合資料4に接合するホルンフェルス製の剥片である。27はその石核である。29は貝岩製の二次加工剥片であり、右側縁部に加工が施されている。30～35は貝岩製の石核である。36はホルンフェルス製、37は水晶製の石核である。

38、40、44、47～54、56、57は貝岩製の剥片である。39、41～43、45、46は貝岩製の二次加工剥片である。39は両側縁に加工が見られる。41、43、46は右側縁、42、45は左側縁に二次加工が施されている。49は取上番号4060と4063が接合したものである。53は取上番号4205と4210が接合したものである。51、52、54、56は正面に礫面が残存している。55、58～60はガラス質流紋岩の剥片である。61～65はチャート製の剥片である。61、62、64、65は正面に礫面が残存している。63は二次加工が施されている。66～70はホルンフェルス製の剥片である。70は正面に礫面が残存しており、取上番号3871と3879が接合したものである。71～86、88は阿蘇溶結凝灰岩製の剥片である。この石材は隣接する尾立第2遺跡では確認されておらず、本遺跡のⅦ層のみで確認されている。87は黒曜石の剥片であり、正面に礫面を残す。89～98は水晶製の剥片であり、89は右側縁に二次加工が施されている。94は正面に礫面を残す。

99は下端部に敲打痕を残す尾鈴山酸性岩類製の敲石である。



第 21 図 後期旧石器時代 II 期石器実測図 (1)



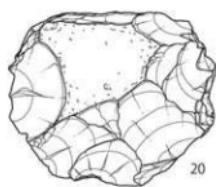
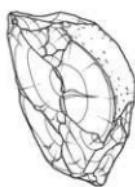
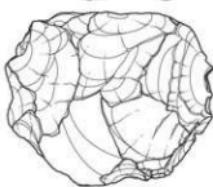
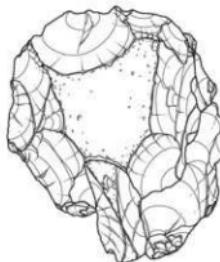
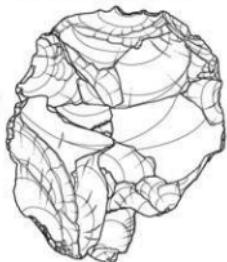
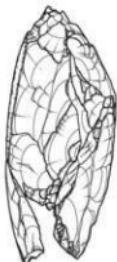
接合資料 2



19



接合資料 3 (20)

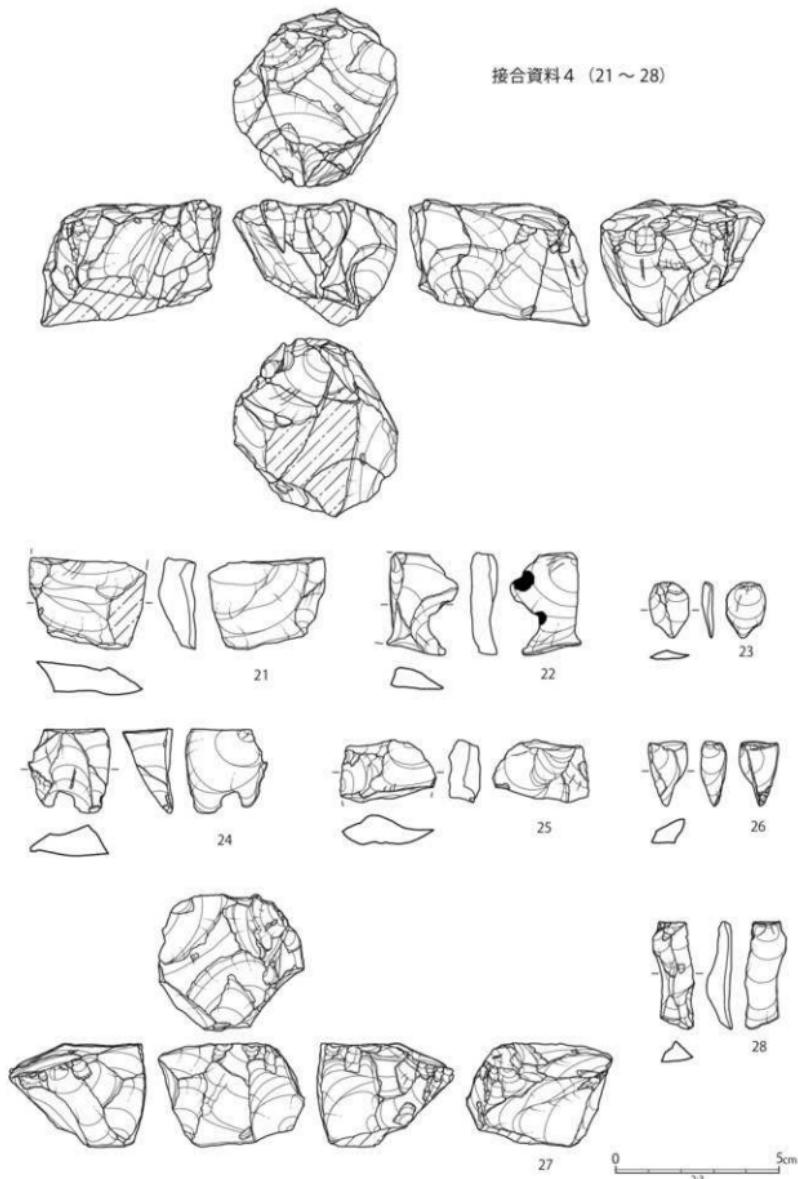


20

0 23 cm

第 22 図 後期旧石器時代 II 期石器実測図 (2)

接合資料4 (21～28)



第23図 後期旧石器時代II期石器実測図(3)



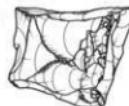
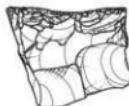
29



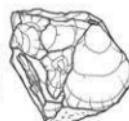
30



31



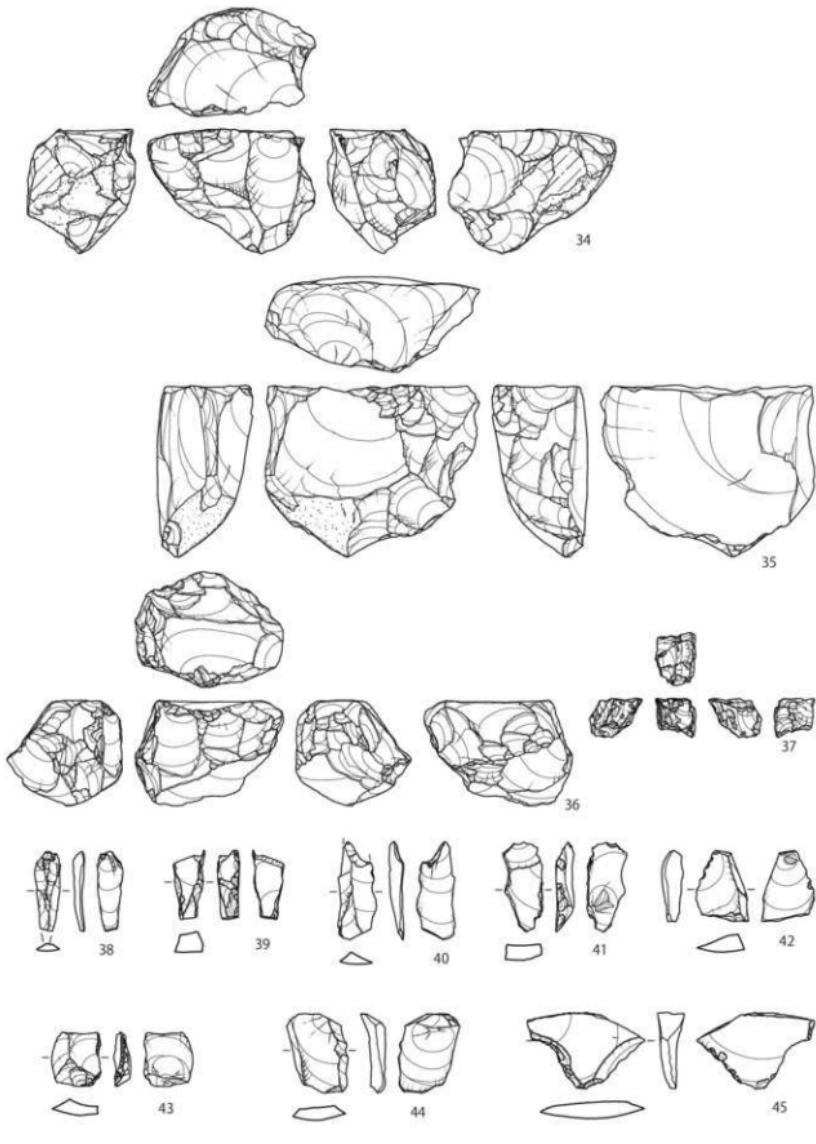
32



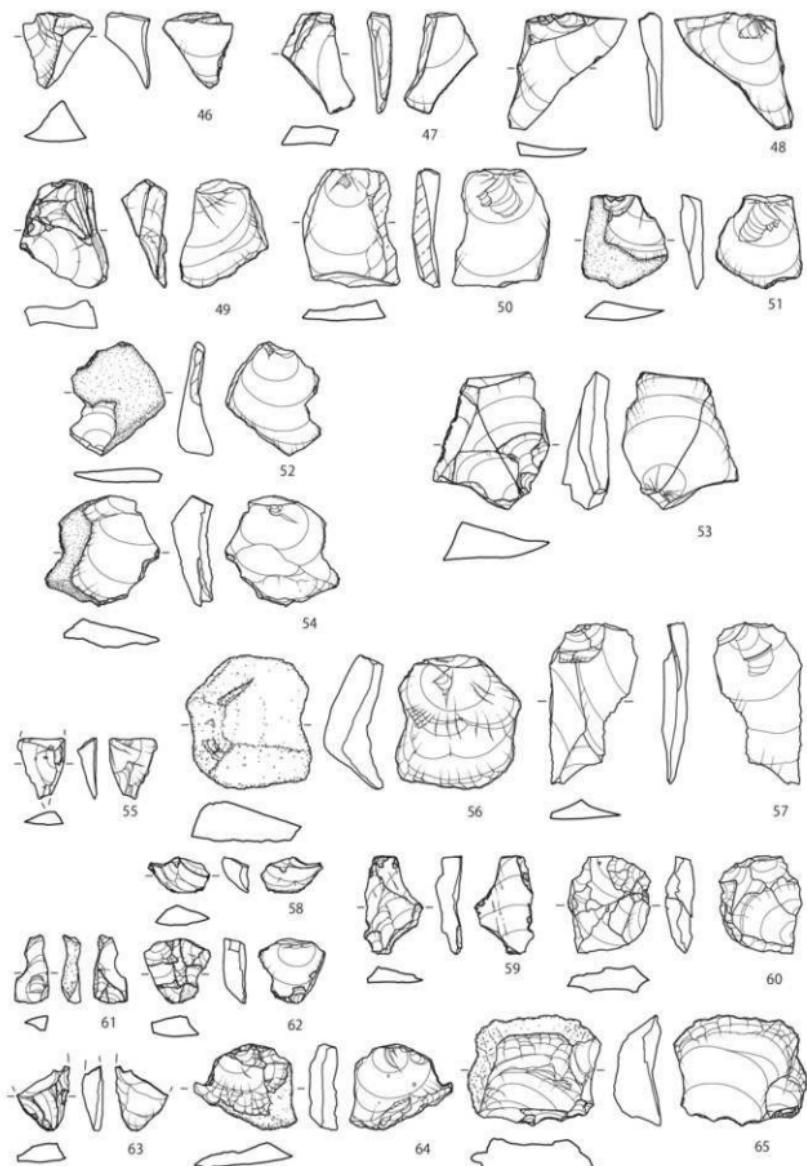
33

A horizontal scale bar with markings at 0, 2.5, and 5 cm.

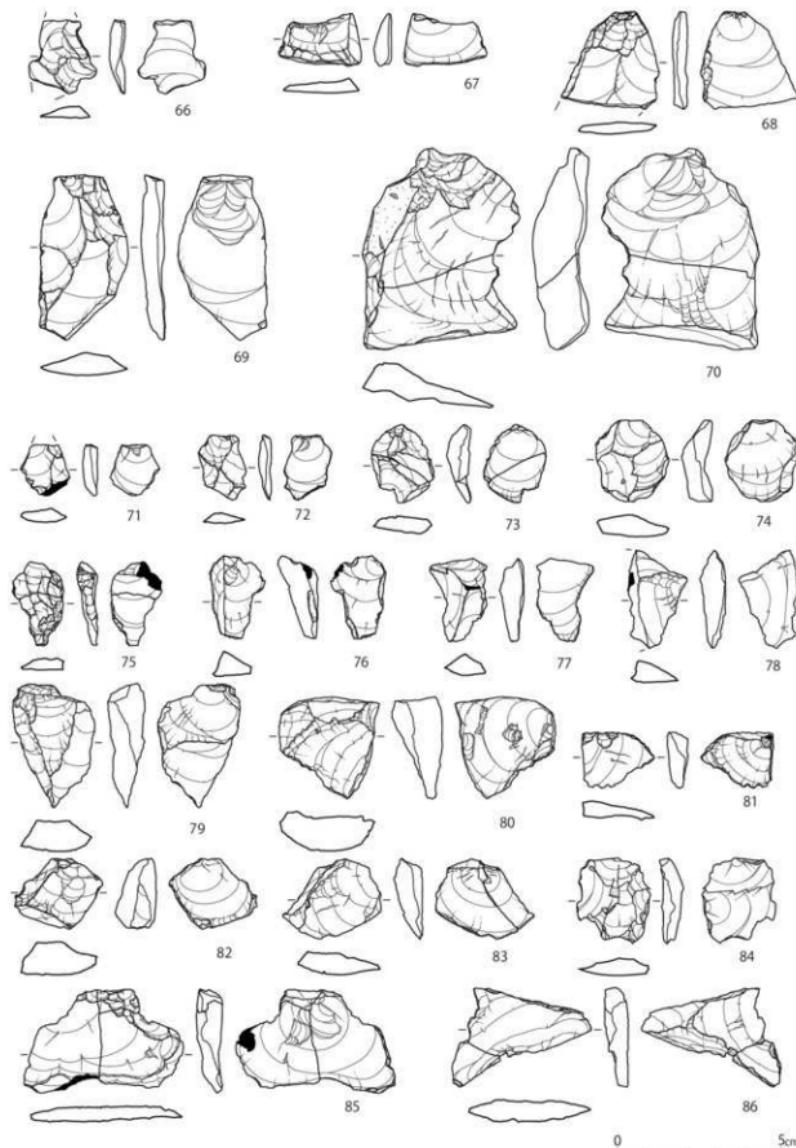
第24図 後期旧石器時代II期石器実測図(4)



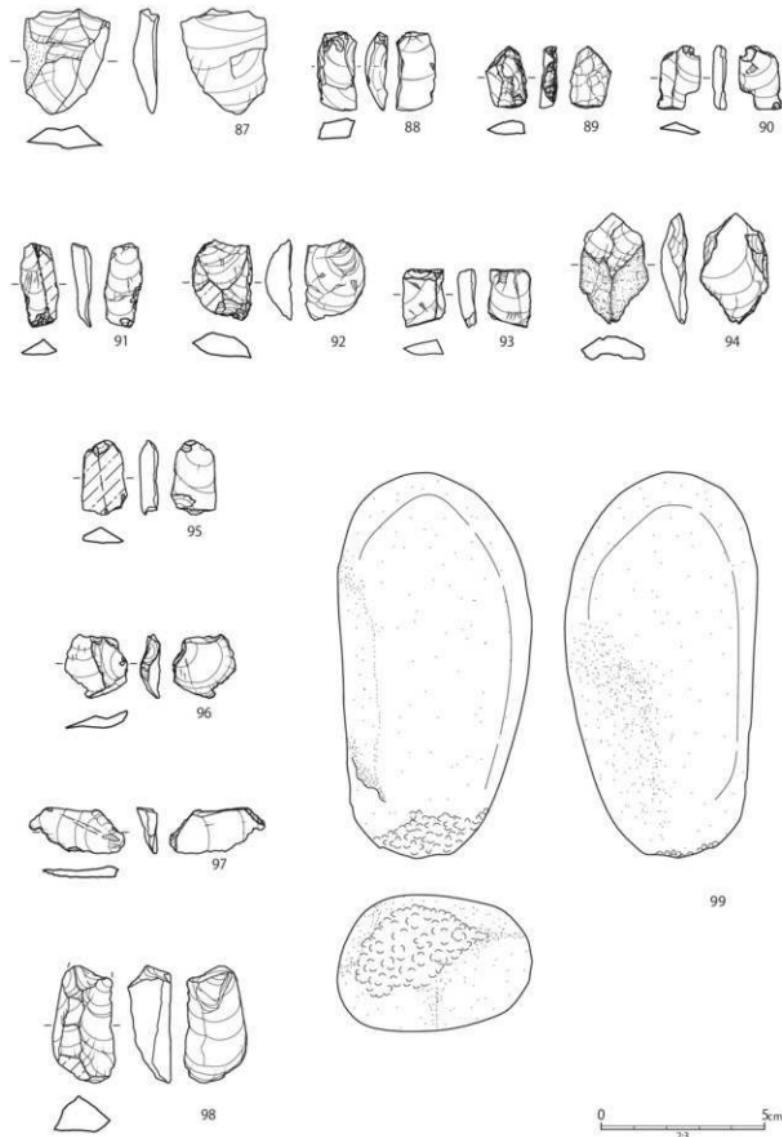
第25図 後期旧石器時代II期石器実測図(5)



第26図 後期旧石器時代II期石器実測図(6)



第 27 図 後期旧石器時代 II 期石器実測図 (7)



第28図 後期旧石器時代II期石器実測図(8)

第6節 後期旧石器時代Ⅲ期

概要

基本層序のVI層で出土した石器を中心とする遺物を主体とした文化期を後期旧石器時代Ⅲ期として報告する。遺構は礫群9基が検出された。遺物はナイフ形石器をはじめ、台形石器、角錐状石器、剥片尖頭器と他の文化期と比較しても多様な器種が出土した。中でも角錐状石器はⅢ期のみで確認されている。

遺構の分布

調査区A・B区の南側からL16GrにS17・16、L15GrにS12、K13GrにS110、I8GrにS16・8、I7GrにS19、C区でS119・20がある。後期旧石器時代Ⅱ期に比べて段階に基數が増加している。

このうち、A・B区の礫群はL16Gr付近の丘陵尾根頂部付近にS17・12・16の一群、北側にやや離れてS110、I7・8Gr付近の平坦な空間にS16・8・9の一群という分布の差を見いだせる。後期旧石器時代Ⅱ期の礫群と同様の立地を示すが、3基で一群を形成するようである。

礫群はS17・8のように、長軸径1m前後の規模で礫の密集した構造が多い。一方、C区のS119・20はA・B区の礫群と異なり、規模は小さく、構成礫も少ない。また、大きめの礫1個を配する特徴がある。

石器の分布

Ⅲ期の石器は、調査区全体に分布している。中でも丘陵尾根線上の平坦部であるI7Grに集中して出土している。製品のみならず剥片や碎片もこのI7Grで多く出土していることから、石器製作の場であった可能性も考えられる。

石材としては頁岩や流紋岩、チャート、ホルンフェルス等多種にわたるが、Ⅰ～Ⅱ期にはほとんど見られなかった凝灰岩製の石器が見られるようになったことがⅢ期の特徴といえる。

石器

100～112はナイフ形石器である。102、は黒曜石製で、105はホルンフェルス製、112はチャート製、その他はすべて頁岩製である。

113～115は台形石器である。113は黒曜

石製、114、115は頁岩製であり両側縁に加工が施されている。

116～120は角錐状石器である。116、117は頁岩製、118はホルンフェルス製、119は凝灰岩製、120は尾鈴山酸性岩類製で取上番号637と1099が接合したものである。

121から127は剥片尖頭器である。121、122、127は凝灰岩製で123、124はホルンフェルス製である。125は流紋岩製で、126は砂岩製である。127については右側縁部全体に細かな加工が施されている。

128は頁岩製の搔器である。縦長剥片を素材とし、剥片末端に二次加工を施している。

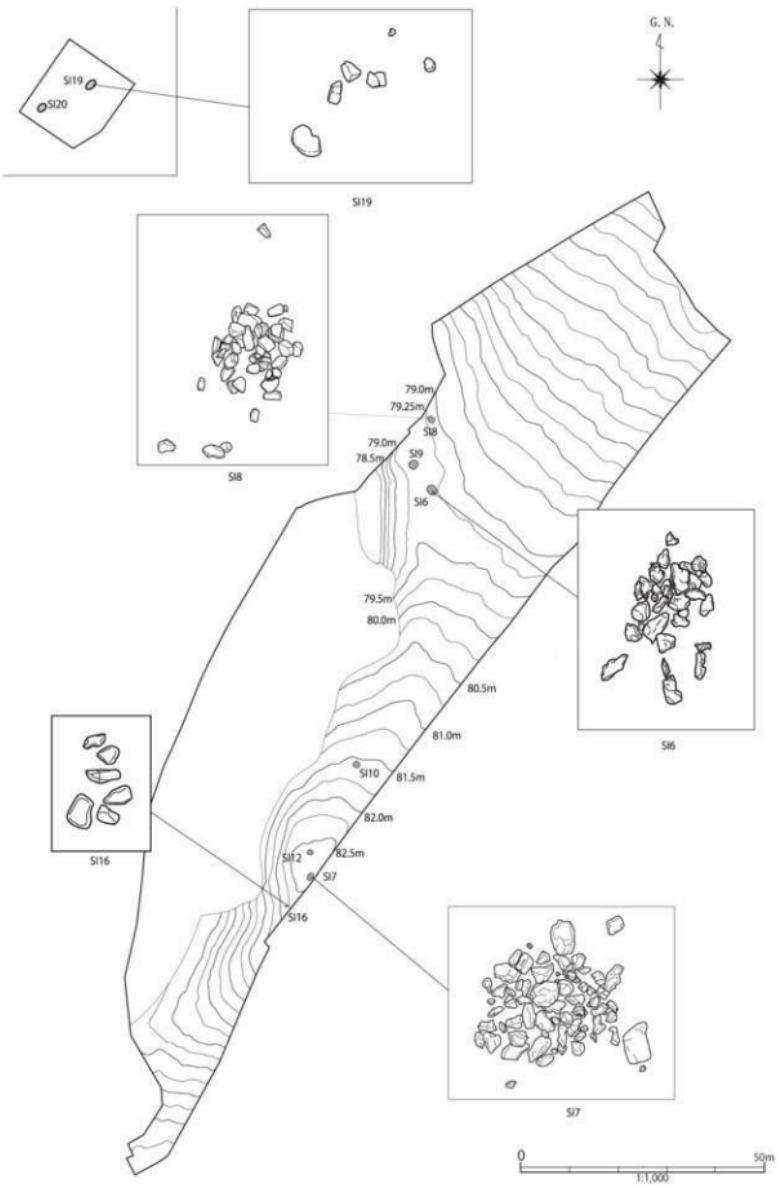
129～133は接合資料5に接合する剥片(129～132)及び石核(133)であり、凝灰岩製である。134は頁岩製の接合資料6である。135は頁岩製の接合資料7に伴う石核である。136は流紋岩製の接合資料8である。裏面に礫面が残存する。137～147は石核である。137、139～142は頁岩製、138、143～144は流紋岩製、145はホルンフェルス製、146は尾鈴山酸性岩類製、147は黒曜石製である。流紋岩製の石核は、一部分のみを剥ぎ取っており、礫面が多く残っているのに対して、その他の石材はほぼ全面に渡って剥ぎ取っている。

148～152、154、155は頁岩製の二次加工剥片である。150は取上番号1826と3323の接合したものであり、微細剥離も見られる。156は角錐状石器である。157～159はホルンフェルス製の剥片である。160～163は黒曜石製の剥片である。164～165は水晶、166は尾鈴山酸性岩類製の剥片である。

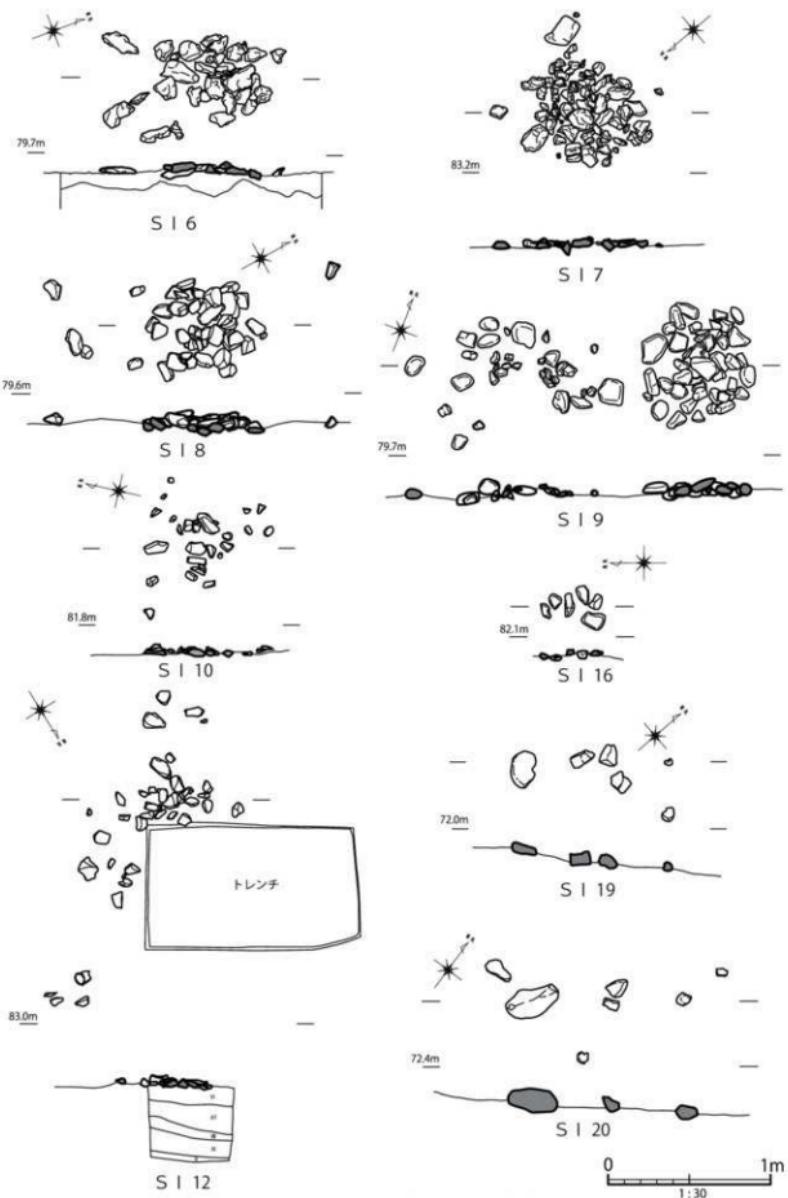
167は砂岩製の敲石である。円礫を使用し、上下端に敲打痕が残る。

168は砂岩製の敲石である。棒状礫を使用し、上下端に敲打痕が残る。

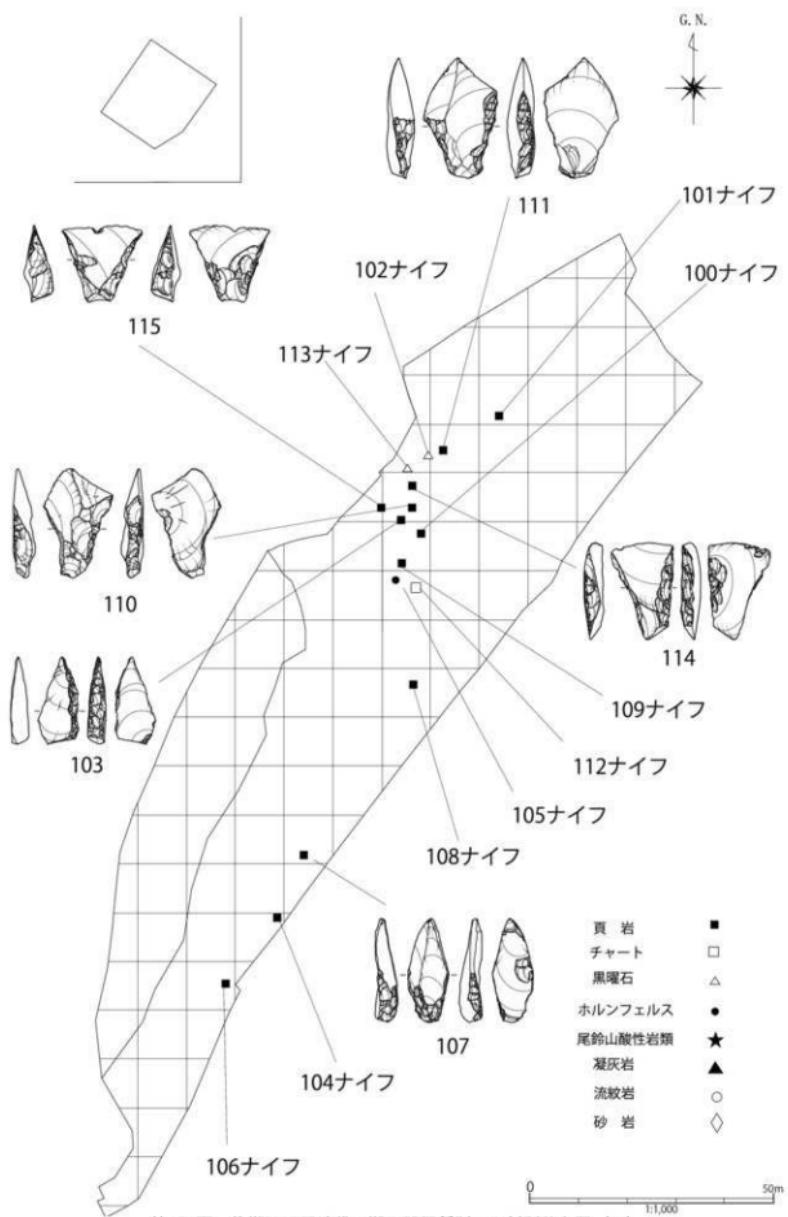
169は砂岩製の磨石である。



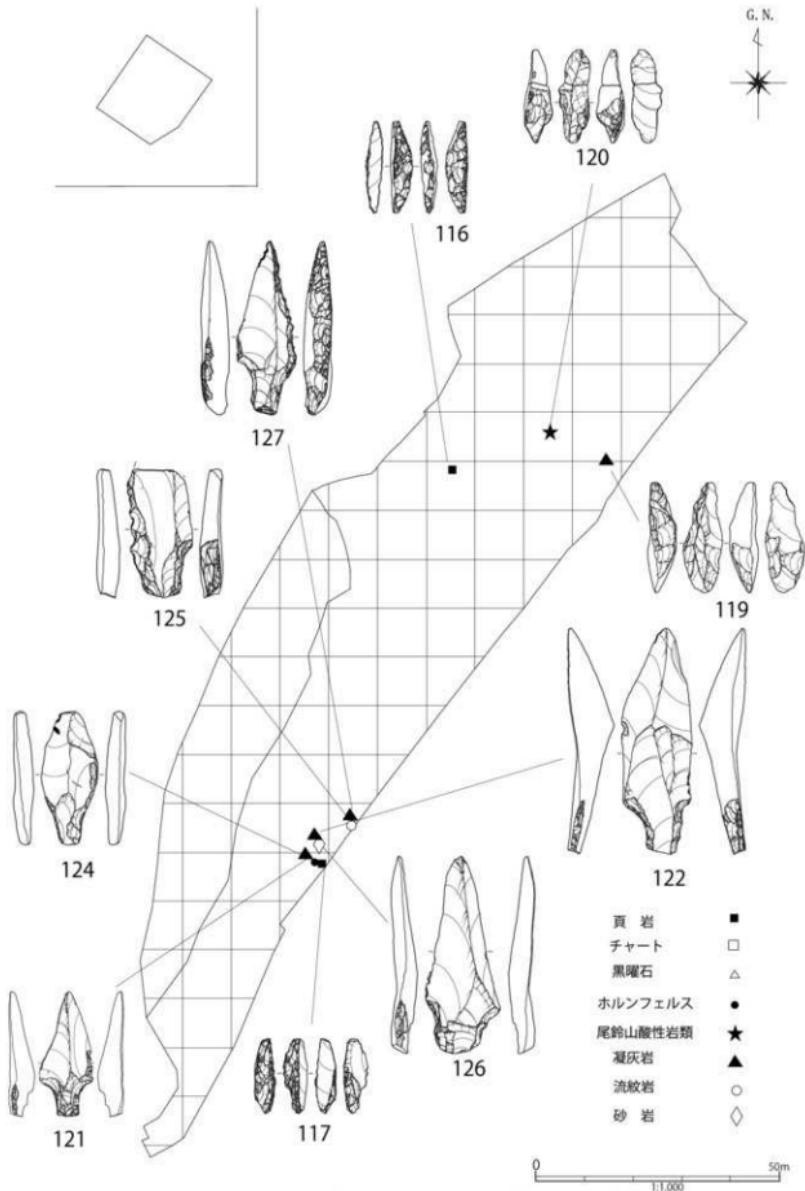
第29図 後期旧石器時代III期礫群分布図



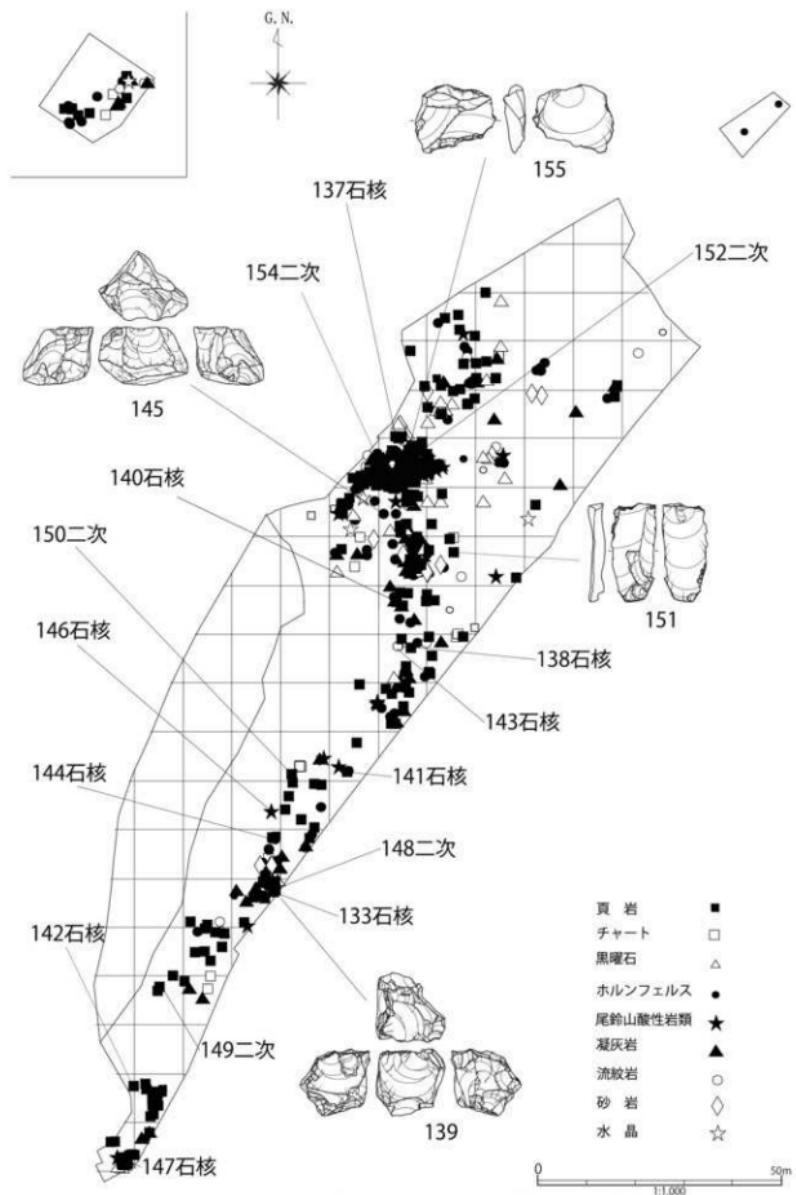
第30図 後期旧石器時代III期砾群実測図



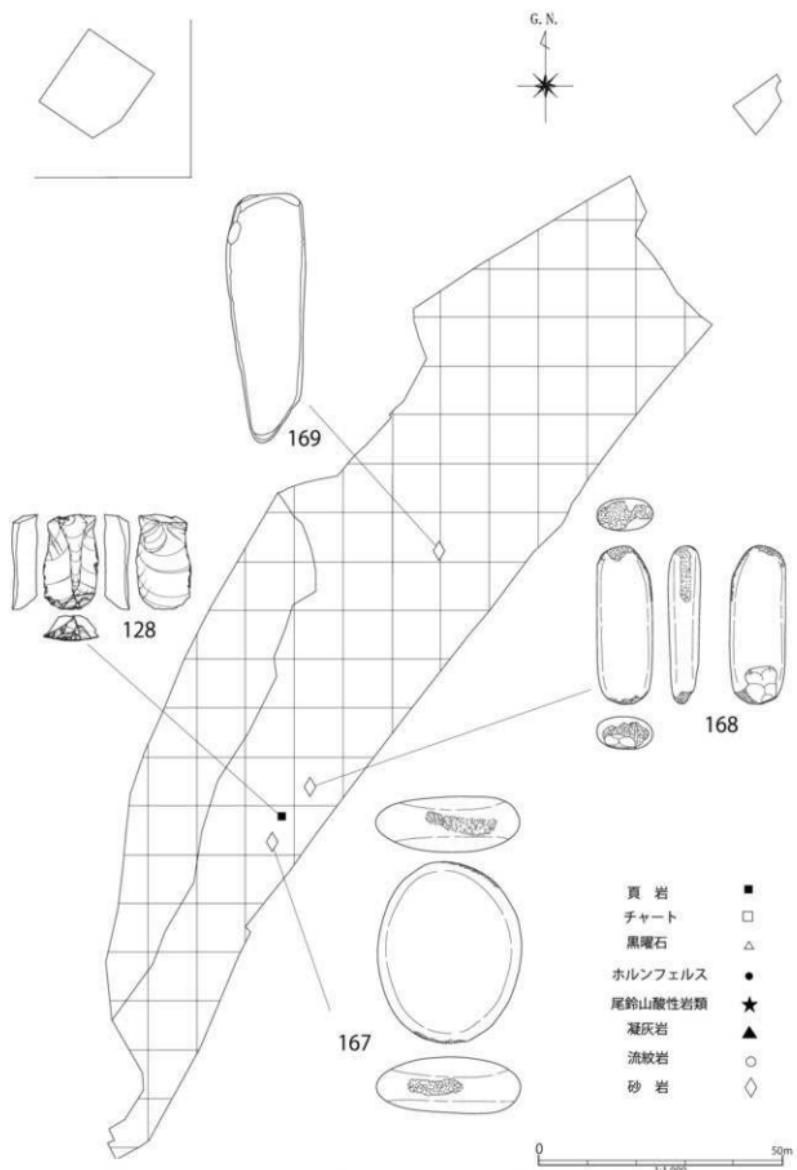
第31図 後期旧石器時代III期石器器種別・石材別分布図(1)



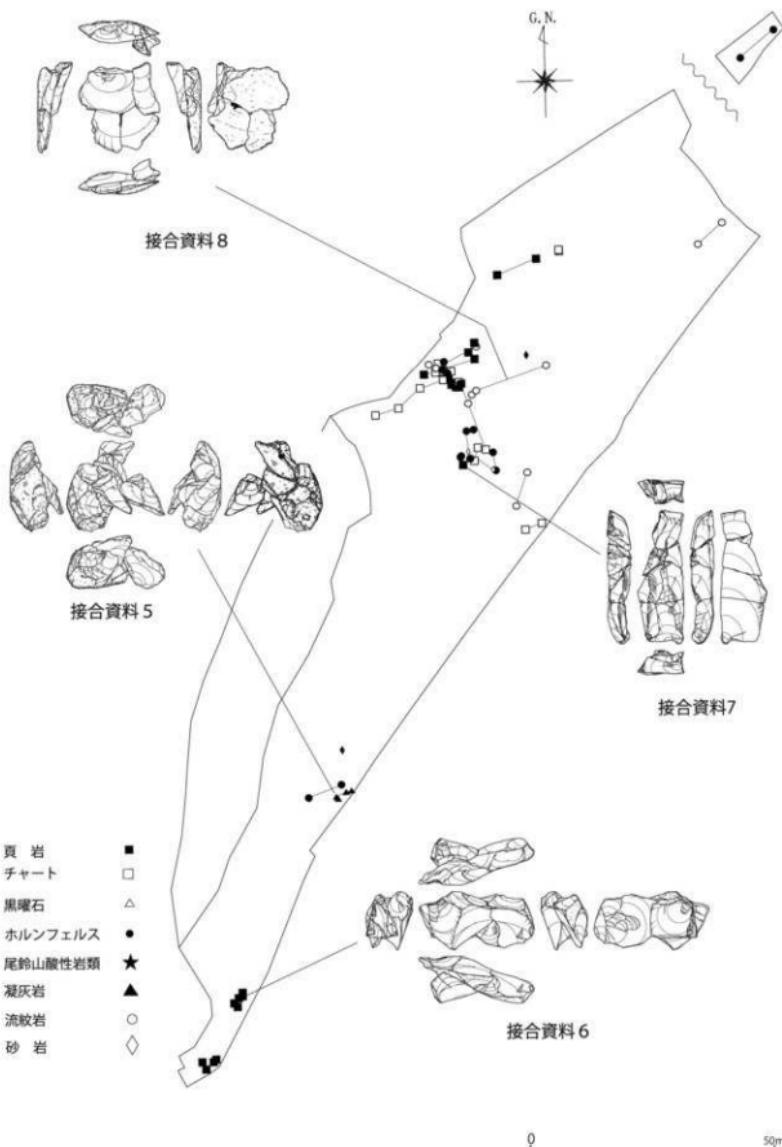
第32図 後期旧石器時代III期石器器種別・石材別分布図（2）



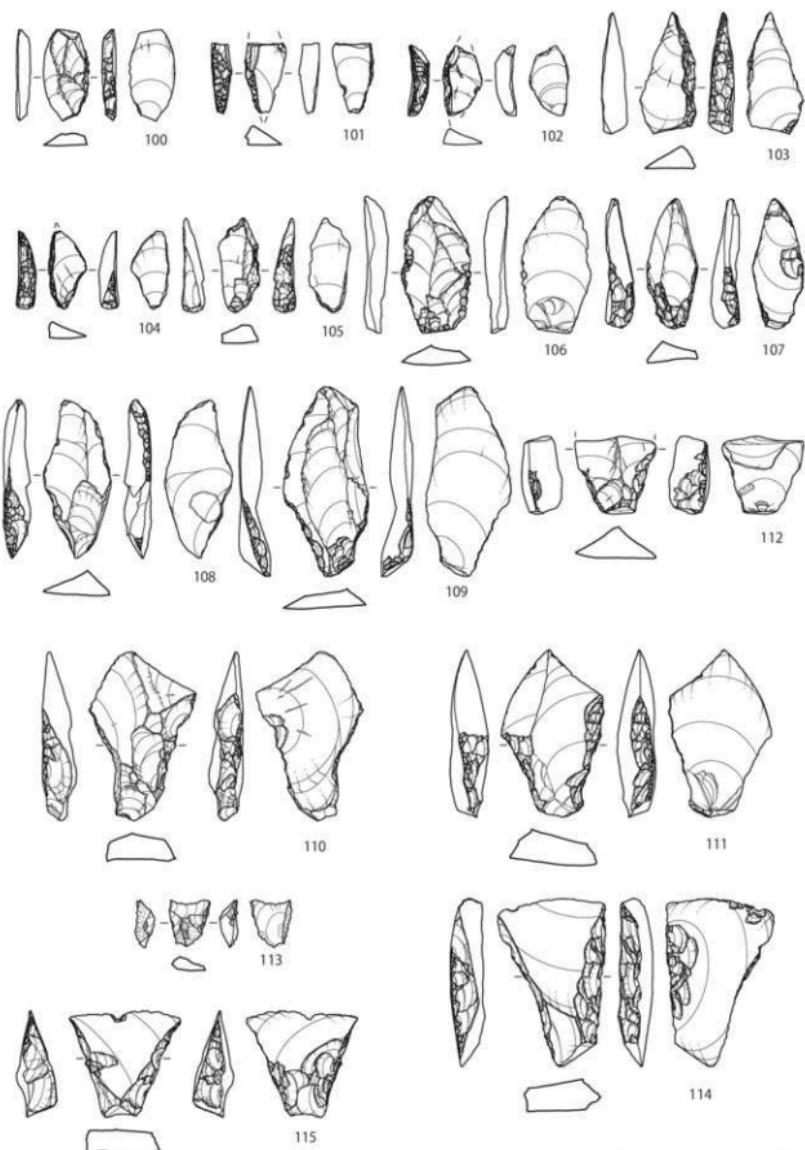
第33図 後期旧石器時代III期石器器種別・石材別分布図（3）



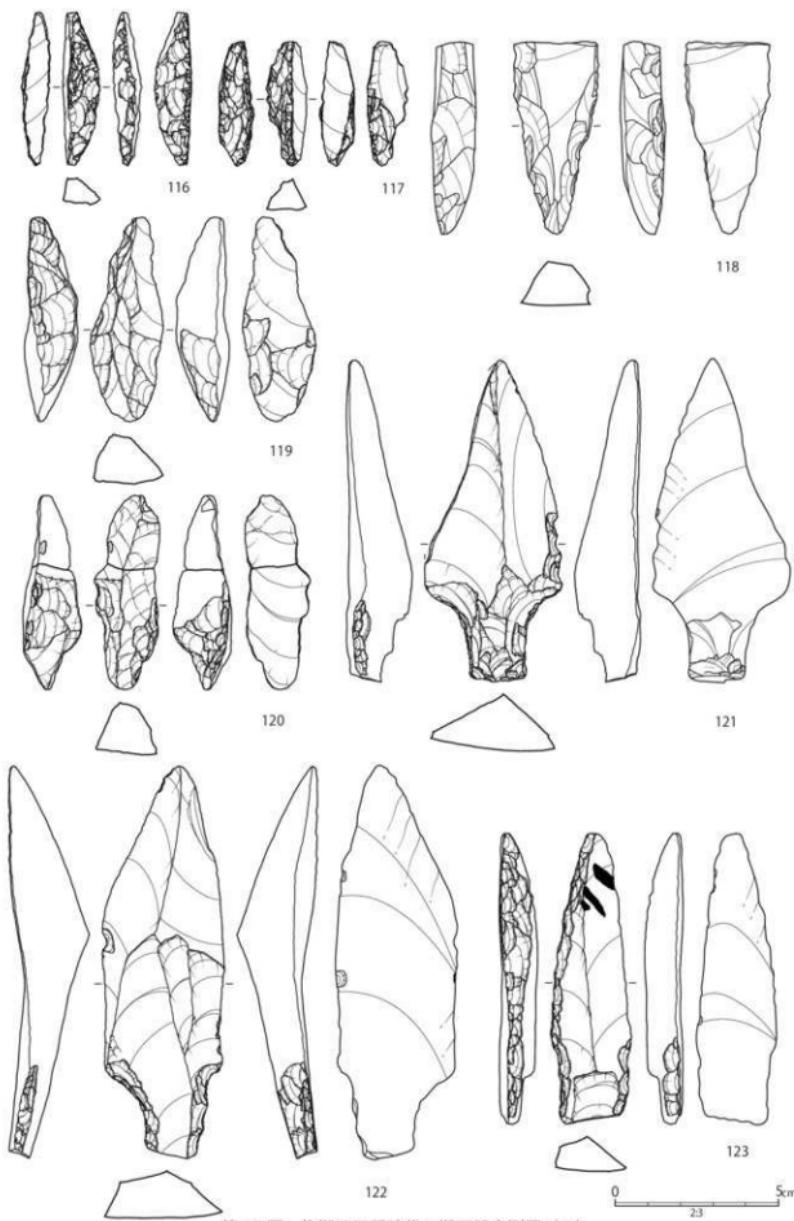
第34図 後期旧石器時代III期石器種別・石材別分布図(4)



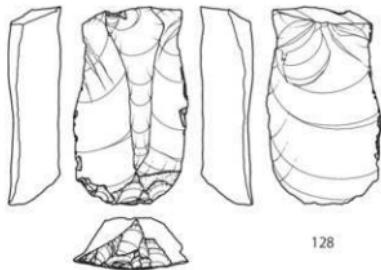
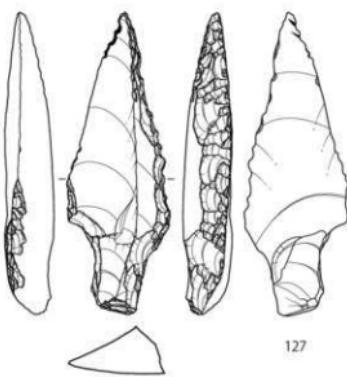
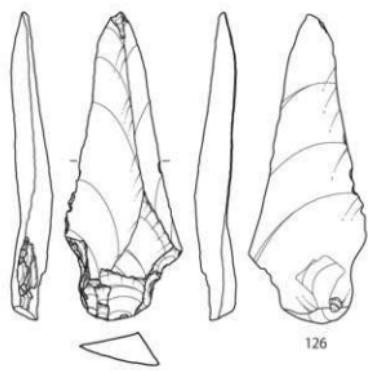
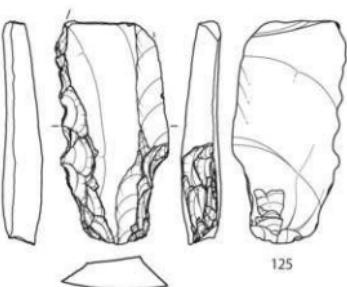
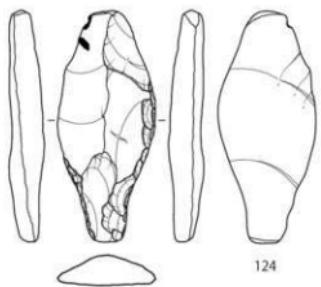
第35図 後期旧石器時代III期石器接合状況図



第36図 後期旧石器時代III期石器実測図（1）

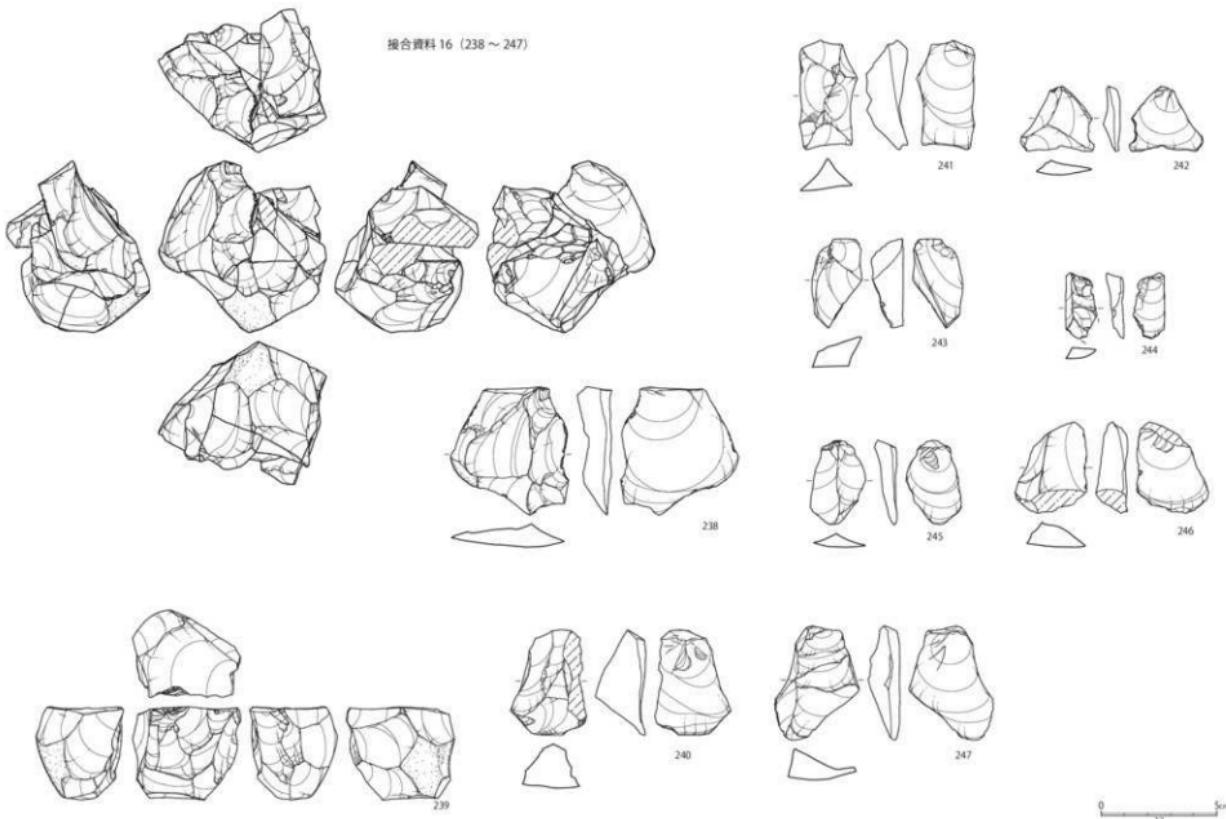


第37図 後期旧石器時代III期石器実測図(2)



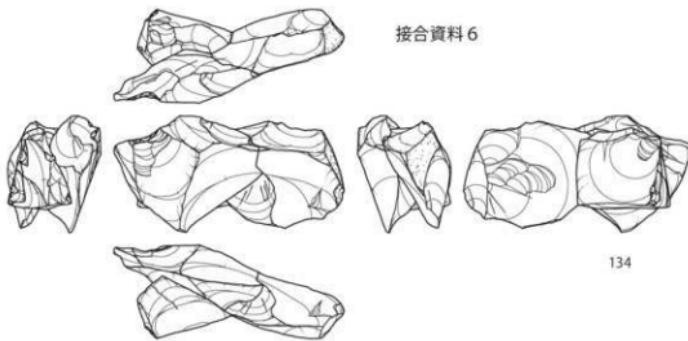
0 2.3 5cm

第38図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図（3）



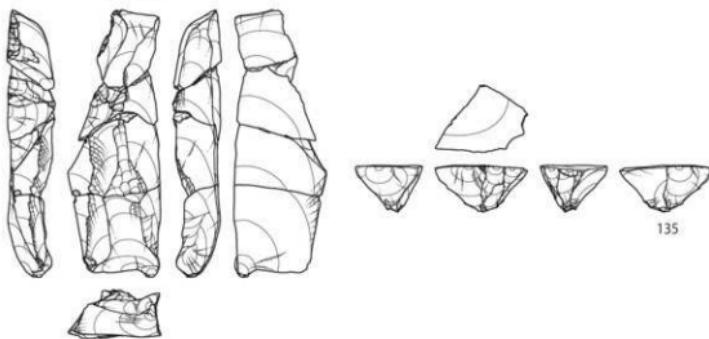
第 39 図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図（4）

接合資料 6



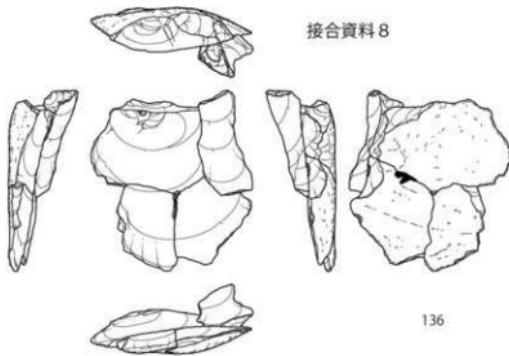
134

接合資料 7 (135)



135

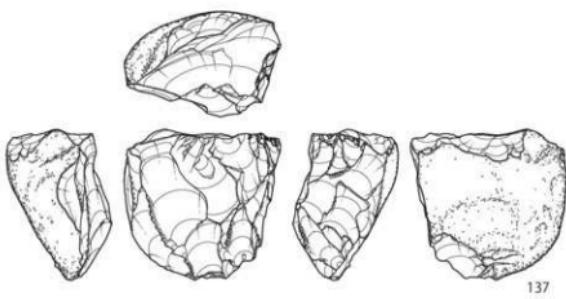
接合資料 8



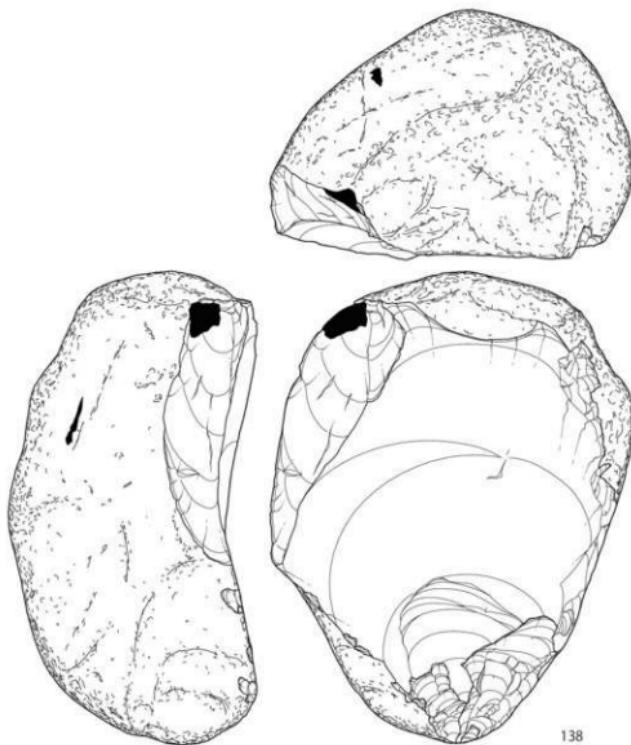
136

0 23 5cm

第 40 図 後期旧石器時代 III 期石器実側図 (5)



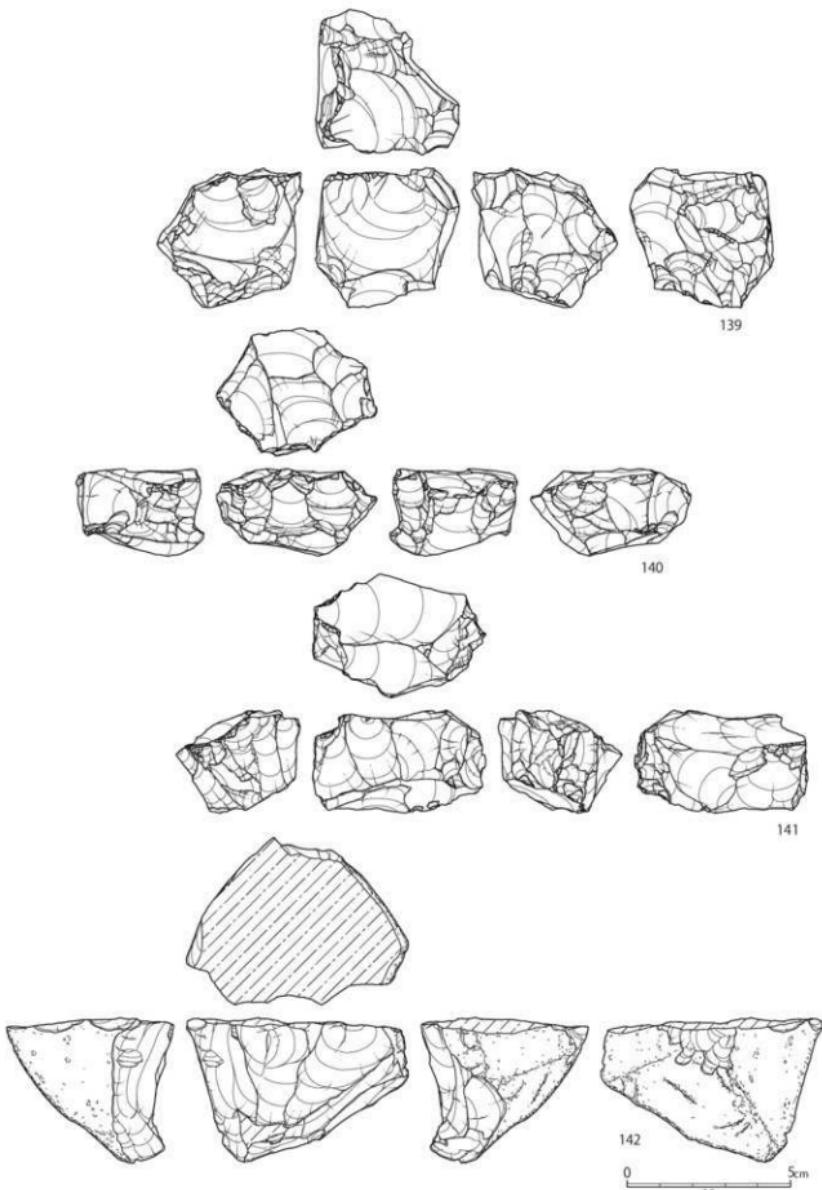
137



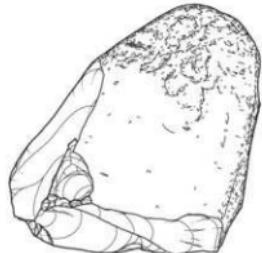
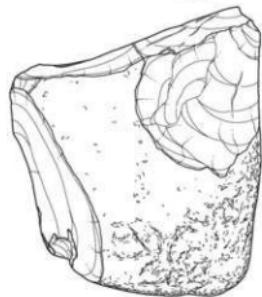
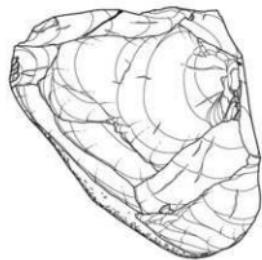
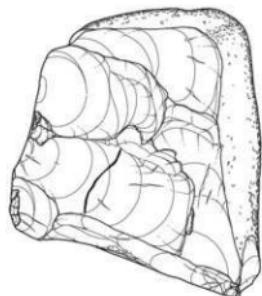
138

0 2.3 5cm

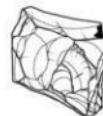
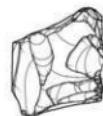
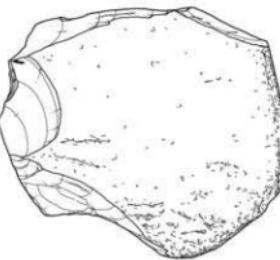
第41図 後期旧石器時代III期石器実側図（6）



第 42 図 後期旧石器時代 III 期石器実例図 (7)



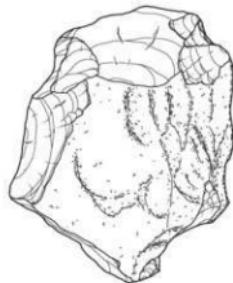
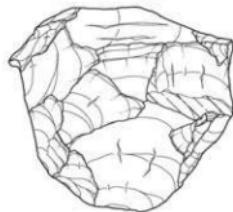
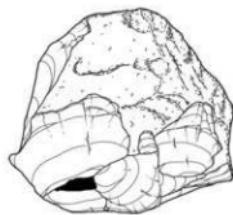
143



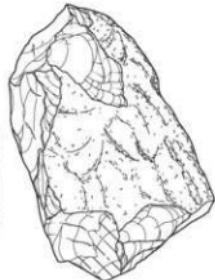
144

0 2.3 5cm

第43図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実例図(8)



146



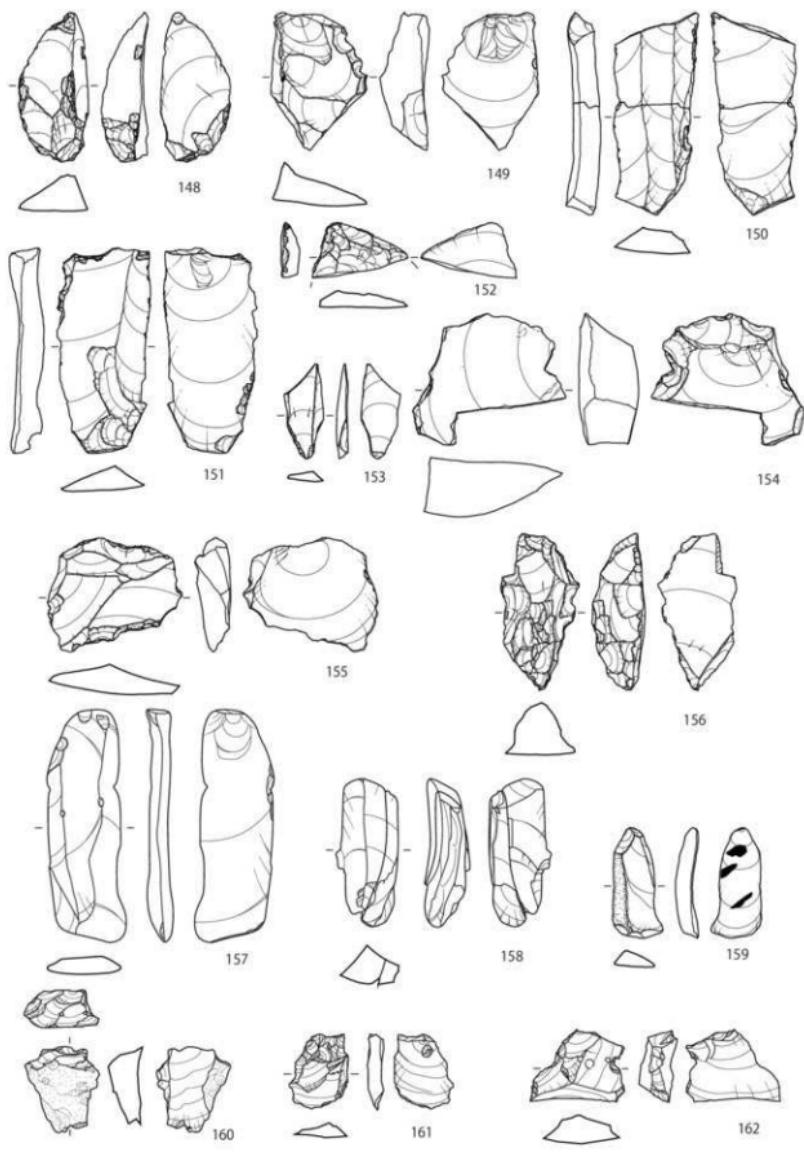
145



147

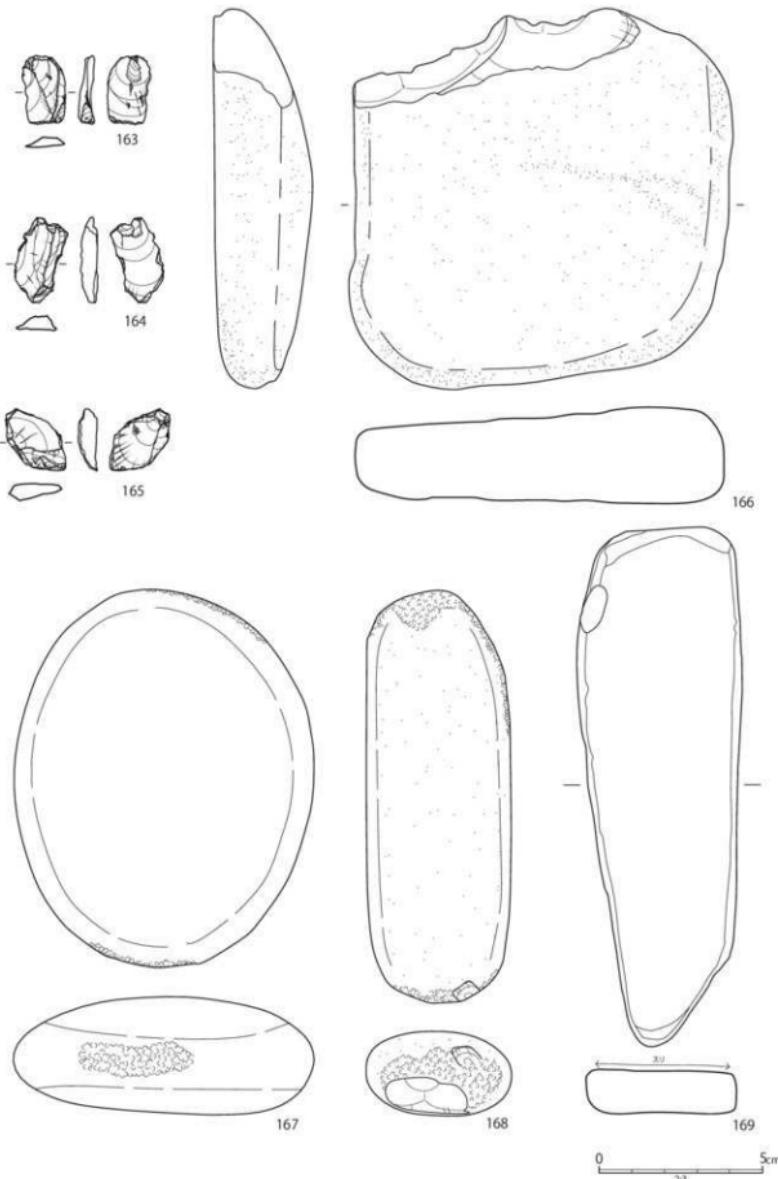
0 23 5cm

第44図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実側図(9)



第44図 後期旧石器時代III期石器実例図 (10)

0 2.3 5cm



第45図 後期旧石器時代III期石器実例図(11)